

江戸東京たてももの園高橋是清邸における歴史展示 実施報告

松 井 かおる*

目次

はじめに

第I章 「高橋是清邸」における歴史展示

第II章 江戸東京博物館所蔵高橋是清関係写真資料

おわりに

キーワード 高橋是清 仁翁閣 二・二六事件 ペルー銀山開発 日露戦争

はじめに

本稿は、江戸東京たてももの園「高橋是清邸」内食堂に於いて、2013年（平成25）2月9日から2016年2月14日まで12回行った歴史展示¹⁾の実施状況を報告するものである。さらに、後で詳述する「高橋是清関係資料」のうち高橋是清関係写真について集成し、検討する。

12回の展示について会期順に【展示概要リスト】を作成し、これに対応する各展示の平面図を【展示平面図】にまとめた。また、主な展示資料及び展示状況について【主要展示資料リスト】を作成し、これに対応する写真を【口絵17～65】にまとめた。さらに、この間の展示で製作した展示パネルについて【展示パネルリスト】を作成し、これに対応する図版を【展示パネル】にまとめた。

その他、高橋是清関係写真について【高橋是清関係写真リスト】（江戸東京博物館所蔵）を作成し、これに対応する写真を【高橋是清関係写真】（江戸東京博物館所蔵）にまとめた。

幕末に生まれ、明治期の官僚、銀行家を経て大正期から昭和初期に政治家として活躍した高橋是清は、日本銀行副総裁に就任した1899年（明治32）、赤坂表町（現在の港区赤坂7丁目）の宅地を購入し、1903年（明治36）1月に竣工した邸宅に移り住んだ。そして、1936年（昭和11）2月26日未明、陸軍将校の襲撃を受けて波乱の生涯を終えるまで、この邸宅で後半生を過ごした。

高橋是清記念事業会は、1938年、邸宅と土地を東京市に寄贈した。これをうけた東京市は、邸宅跡を「高橋是清翁記念公園」として整備し、1941年に公開した。また、二・二六事件における高橋是清襲撃の舞台となった邸宅の主屋は、墓が建てられた多磨霊園内に玄関とともに移築され、同年、休憩所「仁翁閣」として公開された。

江戸東京たてももの園（以下、「園」と略す）は「仁翁閣」を多磨霊園から移築し、復元建造物「高橋是清邸」として1993年（平成5）の開園時より公開した。この時から、邸内の食堂に覗き形の展示ケー

*江戸東京たてももの園学芸員

スと格子状の展示壁、壁掛けパネルを設置し、是清の遺品等関係資料²⁾による展示を、2005年(平成17)春まで通年で行った。2006年から2008年までは、上記関係資料のうち大蔵大臣辞令【口絵39、40】や「本館」所蔵の二・二六事件関係の歴史資料(当時発行された号外、蹶起^{けっき}趣意書、陸軍大臣告示【口絵58】、青年将校の投降を呼びかけるビラ【口絵59】などを2月から5月の期間限定で展示した。2009年から2012年にかけても同時期に、青年期の写真【高橋是清関係写真2、5】、開館時に展示していた是清所用の眼鏡【口絵48】、通勤カバン、ステッキ、達磨木像【口絵53】等を展示した。

筆者は、2012年4月に江戸東京博物館(以下、「本館」と略す)から「園」に異動して「高橋是清邸」を担当することとなった。同年秋ごろ、邸内食堂の展示をなるべく頻繁に、できれば通年でできないか検討するよう指示を受け、是清の遺品のほか、「本館」の歴史資料も活用して、是清の生涯を数テーマに分けて展示する方針を立て、調査を始めた³⁾。最初の展示「高橋是清邸と二・二六事件」が公開できたのは、2013年2月であった。以降、1テーマ3ヶ月程度の会期で展示を行ってきた。平成26年度からは年間で4テーマの展示を行う展示計画⁴⁾について年度当初に「本館」の決裁を受けることとした。

本稿では、2013年2月から現在まで行ってきた歴史展示について報告し、その成果と課題を検討する。また、「仁翁閣」とともに建設局から移管された資料のうち「本館」所蔵の高橋是清関係写真について検討する。

第1章「高橋是清邸」における歴史展示

12回の展示を行うにあたって、工夫した点や気づいたことを以下に述べる。

◇H25-1 「高橋是清邸と二・二六事件」(会期:2013年2月9日~5月12日)

- ・当初、筆者は歴史展示を行うにあたり、高橋是清邸の敷地とその歴史に関心を持ち、「本館」所蔵の地図により、当該敷地の変遷を調べた。「園」の従来の資料解説では、邸宅の敷地は「丹波篠山藩青山家中屋敷跡」とされていたが、尾張屋版切絵図「今井谷六本木赤坂」(1857年・安政4年発行)を確認したところ、幕末には当該敷地は「青山備中守中屋敷」であった【展示パネル1】。
- ・この時の展示で邸宅全体の平面図パネル【展示パネル2】を初めて展示した⁵⁾。
- ・上記平面図をもとに、事件当日の高橋是清邸における叛乱軍による襲撃の動きを、裁判記録等からパネル化した【展示パネル3】。しかしこの時点では、二・二六事件の全貌や時代背景の解説パネルは準備できなかったため、歴史展示としては不完全なものとなってしまった。
- ・【展示パネル3】で高橋是清の死体の弾痕について、警察医作成の死体検案書から引用する際、「右乳房内上方ニ二箇、右第五肋骨部ニ一箇1射入弾痕アリ」という文章のカタカナの「ニ」と漢数字の「二」を読み違えたため、3箇所を43箇所と表記してしまった。昨年、上記文書の写真版を見る機会があり、カタカナの「ニ」が小さく表記されていたため、読み違えに気づき、【展示パネル13】を修正した。

◇H25-2 「政治家高橋是清」（会期：2013年5月14日～9月1日）

- ・初回のテーマを、是清が生涯を閉じる二・二六事件を中心に設定したため、今後は是清の生涯を遡っていくこととし、第二期は、日本銀行総裁を辞して大蔵大臣に就任してから二・二六事件で遭難するまでの時期をとりあげた。
- ・高橋是清が田中義一内閣の大蔵大臣として昭和金融恐慌に対処した際、迅速な現金の供給を行うため発行した「乙二百円札」、いわゆる裏白紙幣【口絵43】の複製資料を歴史展示の目玉として展示した。
- ・積極財政政策を特徴とする「高橋財政」により、「モダン東京」の文化が花開いたことを示す資料として、当時、丸善株式会社が顧客向けに発行していた月刊カタログ『流行新相』を展示した。

◇H25-3 「日本銀行・横浜正金銀行時代」（会期：2013年9月3日～12月26日）

- ・第三期は、高橋是清が銀行家として活躍する時代をひとつの区切りとした。
- ・日本銀行本館の落成式の様子を描いた錦絵「日本銀行落成之図」【口絵29】、本館の外壁の仕様がわかる絵葉書【口絵28】はいずれも本展示が初公開であり、所蔵資料の活用という点で意義のある展示となった。
- ・高橋是清は、1893年（明治26）9月、銀行支配役となり、新規に開店する日本銀行西部支店長として馬関（現在の下関）に赴任した。日本銀行の支店を同地に設置して、一定の紙幣を保有することにより、従来現金輸送にかかっていたコストを節約できるため、九州金融界の経済活動を活性化することとなった。翌年7月、豊島沖の戦いに端を発して日清戦争が始まると、軍事公債の募集が地域により組織的に行われることとなり、同支店も精力的に行った。1894年9月12日の当用日記にも「軍事公債五千円申込」の記述がある。『高橋是清自伝』（以下『自伝』と略す。参考文献高橋参照）によれば、この月、同支店は当初の目標額を大幅に上回る18万円の公債申し込みを受けた。本展では、これまで一般的にその存在が知られていなかった高橋是清の1894年の「当用日記」を展示し、日清戦争における戦費等の調達に関する資料として、東京府知事発行の感謝状【口絵30】を展示した。
- ・この時期の関係資料として、高橋是清の全身木像があったが、展示会場となっている邸内の食堂に設置している展示ケースは、独立型の覗き型ガラスケースのみで、背の高い立体物の資料は展示できなかった。
- ・初めて高橋是清の年譜パネルを製作し、展示した。上記木像を展示する代わりに、木像の表裏の写真【口絵33、34】をパネルに掲載した【展示パネル】。

◇H25-4 「是清が愛した品々」（会期：2014年1月7日～2月21日）

- ・「園」建設時、東京都建設局から同生活文化局に「仁翁閣」が移管されるにあたり、同施設内に所蔵されていた資料のすべてが「本館」に収蔵され、「高橋是清関係資料」として登録された。しかし、これらの内容を検討したところ、多磨霊園内の墓に埋葬された東京市職員関係と思われる資料も含まれていることがわかった。

- ・第四期にあたる本展では、上記のうち高橋是清の愛用品と思われる資料を中心に以下のように構成した。①是清の名刺【口絵37、38】、②是清所用と思われる文房具類【口絵50、51、52、54】、③是清自身の達磨コレクション【口絵53ほか】、④食器類【口絵45、47、49】

◇H25-5 「二・二六事件と高橋是清邸」(会期：2014年2月22日～5月11日)

- ・第五期、二巡目にしてようやく二・二六事件関連年表【展示パネル11】、二・二六事件概況【展示パネル12】、襲撃事件後2月29日の事件終結までの各部隊の動き【展示パネル14】を製作・展示することで是清邸襲撃事件を二・二六事件全体の中に位置づけることができた。
- ・本展では、「本館」所蔵の高橋是清関係資料のうち二・二六事件と関わりがある唯一の資料として、是清所用の日めくり卓上カレンダー【口絵55】を展示した。

◇H26-1 「幼少時からペルー銀山開発まで」(会期：2014年5月13日～8月31日)

- ・平成26年度は、年度当初に、前年度の企画をベースにして、高橋是清の生涯を年代順に4テーマでたどれるよう年間企画を設定し、「本館」の決裁を受けた。
- ・是清の生涯のうち、銀行家以前をテーマにするのはこの第六期(H26-1)が初めてだった。第一章では、横浜開港資料館2013を参考に、当時のヘボン塾を写真【口絵17、18】により紹介し、是清が英語修行に通った頃の下宿先とヘボン塾の位置関係を絵図により紹介した。
- ・第二章では、ヘボンが編纂した『和英語林集成』を目玉資料とし、同上図録を参考に、文部省の通訳となった是清が同書の著作権について調べたことがきっかけで知的財産権の保護に関する仕事をする事となったこと、同書の印税の寄付によって建設された明治学院の学生寄宿舍ヘボン館を写真で紹介した【口絵19、20】。また、残された写真から、異父妹かねと撮った写真【高橋是清関係写真4】、共立学校校長時代の写真【高橋是清写真5】を紹介した。
- ・第三章では、農商務省少書記官として専売と商標保護についての欧米視察旅程、ロンドンで撮影された肖像写真【高橋是清写真7】を紹介した。また、是清が特許局庁舎として建設に携わったが、結果的に農商務省庁舎となった建造物を絵葉書【口絵22】で展示した。
- ・第四章では、ペルー銀山開発に関わる歴史資料【口絵23～26】を展示した。いずれも今回が初公開。
- ・また本展では、是清が赤坂に邸宅を建てて生活する以前の半生について、居住地、同居する家族という視点で「高橋是清家族と住居の系譜」【展示パネル16】を製作・展示した。

◇H26-2 「日本銀行・横浜正金銀行時代」(会期：2014年9月2日～12月21日)

- ・H25-3に展示できなかった高橋是清木像【口絵33、34】は今回の展示に合わせて専用展示ケースを製作し、展示した。なお、本資料は衆議院憲政記念館や博物館明治村への貸し出し履歴はあるが、館としては本展が初公開となった。また、木像の関連資料として「御肖像贈呈記」【口絵35】、「目録」【口絵36】も関連資料として展示した。

- ◇H26-3 「政治家高橋是清」（会期：2014年12月23日～2015年2月15日）
 - ・H25-2を踏襲した内容としたが、H26-2で設置した高橋是清木像が好評だったため、展示期間を延長した。

- ◇H26-4 「二・二六事件と高橋是清邸」（会期：2015年2月17日～5月10日）
 - ・H25-5を踏襲した内容。前述とおり⑦パネル13を一部修正した。

- ◇H27-1 「幼少期からペルー銀山開発まで」（会期：2015年5月12日～8月30日）
 - ・開成学園に高橋是清が揮毫した扁額が所蔵されているという情報をテレビ番組で知り、学園を取材して、同学園所蔵の扁額【口絵21】を紹介する解説を作成した。

- ◇H27-2 「日本銀行・横浜正金銀行時代」（会期：2015年9月1日～12月25日）
 - ・前年に続いて高橋是清木像【口絵33、34】を専用ケースで展示した。「御肖像贈呈記」【口絵35】については、実物は展示せずに、横浜正金銀行行員501名の署名部分の写真を掲示した。

- ◇H27-3 「政治家高橋是清」（会期：2016年1月2日～2月14日）
 - ・展示の内容は前年度第三期を踏襲しているが、第二章の写真集成を行う過程で発見した、是清が鳩杖を拝領した際の記念写真【高橋是清関係写真55】を展示の最後に加えた。二・二六事件で遭難する一年前の写真だが、現役の大蔵大臣を務めていたせい、背筋も伸び、矍鑠としている。前年度に続き、高橋是清木像をH27-2から引き続き展示した。

第Ⅱ章 江戸東京博物館所蔵高橋是清関係写真資料

「本館」には高橋是清関係写真が50点余り収蔵されている。その大半は、1991年（平成3）、多磨霊園内の「仁翁閣」が小金井公園内の「園」に移築される際、関係資料として東京都建設局から同生活文化局へ移管されたものである。そのほか、たてももの園開園後、遺族等から寄贈された写真も数点含まれる。

本稿では「本館」所蔵の高橋是清関係写真を集成し、年代ごとにまとめるリスト【高橋是清関係写真リスト】とそれに対応する図版【高橋是清関係写真】をもとに検討する。なお、当該写真資料のうち、後妻の品と再婚するまでの時代の写真群を「青年期」、銀行家時代までの写真群を「壮年期」、立憲政友会時代の写真を「立憲政友会関係」、政界引退⁶⁾以降の写真群を「老年期」と分類した。

なお、本章の内容は、その多くを『自伝』、『波乱万丈高橋是清その時代』（以下『波乱万丈』と略す。参考文献長野参照）の記載によっている。

(1) 青年期

No. 1、2、3、4、5、7、9、10の写真（以下、各写真資料を【高橋是清関係写真リスト】の

No.により示す)は『自伝』の巻頭グラビアに掲載されている。

No. 1は写真上部に名字の書き込みがみられる⁷⁾。左の「高橋」は是清、中央の「山岡」は後年化学者となった山岡次郎⁸⁾、右の「本多」は福井藩家老本多修理の息子の喜一と思われる。No. 2の写真にも名前が記されている。右の「鈴木」は仙台藩士で横浜での英語修行、その後のアメリカ留学(奴隷契約)を是清とともに経験した鈴木知雄である。この写真が撮影された前年、唐津から帰京した是清に、鈴木が大蔵省通信寮の前島密を紹介し、是清の大蔵省出仕のきっかけをつくった。中央の「高橋」は是清、左は津山藩医箕作秋坪^{みつくりしゅうへい}の三男で後年動物学者となる「箕作佳吉」^{みつくりかきち}である。撮影当時は是清とともに大学南校の教頭グイド・フルベッキの書生として邸内の長屋に住んでおり、是清が持ち込んだ、アメリカの郵便規則の翻訳の仕事を手伝っていた『自伝』。No. 1、2とも「明治6年」のクレジットで掲載されているが、山岡次郎は1871年(明治4)から1875年まで米国に留学しており、本多喜一は同書によれば、福井藩が1871年、ウィリアム・グリフィスを藩校の理科教師に迎えるタイミングで福井に戻っている。No. 1は山岡の服装から、山岡が留学のため米国に発つことを記念して1871年に撮影した写真と推測される。是清の体形もNo. 1とNo. 2では異なっているように思われる。

No. 3、4は文部省通訳時代の写真。No. 4の左は異父妹かね。生後まもなく高橋家の養子となった是清は母との面識もほとんどなかったが、異父妹のかねと初めて会ったのは、アメリカに旅立つ直前であった。その後、是清が文部省出仕となって芝の実家(旧仙台藩中屋敷長屋)で養祖母と暮らすようになってから再び会うようになり、かねが9歳のころ、芸者屋に売られそうになったため、引き取って同居した。No. 4は同居して間もない頃の写真と思われる。是清はかねを篠田雲鳳の塾に通わせ、漢詩と習字を習わせた。その塾でかねの面倒をみてくれた西郷柳子を養祖母が気に入り、1876年に是清は柳子と結婚した。

No. 5は『自伝』のクレジットによれば、左が共立学校校長時代の是清、中央は鈴木知雄(撮影当時、東京大学予備門の英語教師と共立学校講師を兼任)、右は横田。同書に登場する相場師の横田廣太郎。土佐出身で、株の仲買商を是清に勧めた人物である。

(2) 壮年期

No. 6は、是清の妻柳子が亡くなった年に撮られている。後列左は農商務省商標登録所長時代の是清、右は乳児(写真には「おちかさん」と記されている)を抱く鈴木知雄。前列右が長男是孝(7歳)、左が次男是福(3歳)。

No. 7は、1885年～86年(明治18～19)、特許、商標登録関係業務の実情を視察するために赴いた欧米出張の途中、ロンドンで撮影されたもの。

No. 8は「日本銀行総裁時代」のクレジットがある写真だが、いくつかの点で違和感を感じる。まず、是清は加齢につれて頭髪が後退する性質であり、日本銀行総裁就任を祝って横浜正金銀行行員有志(ほぼ全員)から送られた全身像の是清の頭は禿げている。それに対してNo. 8の写真の是清は長髪で、髭はあまり手入れされておらず、身なりも質素である。これらの点から、この写真が撮られたのはペルーからの帰国以降、日本銀行本館建築事務所に雇われるまでの浪人時代と推測する。

No. 9 は日本銀行西部支店長時代、No.10は1898年（明治31）、横浜正金銀行副頭取として世界の各支店の経営状況視察（裏の目的は外債募集の可能性の調査）旅行をした時の写真。

No.11はNo.10で述べた横浜正金銀行海外支店視察出張（外債募集の予備調査を兼ねる）の終盤、ニューヨーク出張所の視察が終わり、ナイアガラで名所となっている滝を見学した時の写真。ナイアガラはサンフランシスコに向かう大陸横断鉄道の出発駅となっていた。当時、日本からアメリカ東部へ渡る場合、船で西海岸まで行き、そこから陸路（大陸横断鉄道）でニューヨークを目指した。左から高橋是清、その隣は当時日本銀行理事で翌年大蔵省東京税務管理局長に就任する吉井友兄^{ともえ}、右の二人は当時の日本銀行ニューヨーク出張所長長崎夫妻である。

No.12、13は、高橋是清が日露戦争の戦費調達のための外債募集のため滞在した1905年（明治38）4月、1905年、ニューヨーク州のスカボローで撮影されたものである。No.12は右から高橋是清、横浜正金銀行ロンドン支店支配人山川勇木、同役員巽孝之丞、一人置いて西巻豊佐久、是清の秘書として同行した深井英五、日本銀行理事吉井友兄。No.13も同じメンバーが写っている。

No.14、15、16もNo.12、13と同時期の写真である。No.15、16では是清が運転席に座っている。国内国外の自動車史を研究されているトヨタ博物館学芸グループ・プロフェッショナル・パートナーの杉浦孝彦氏によれば、No.15、16で高橋是清が運転している自動車は、車名・年式とも不明だが、木製スポークのタイヤ、アセチレンガス・ランプのヘッドランプ、オイルランプの車幅灯が装備され、駆動は後輪へのチェーン・ドライブで行っている点から、撮影時期（1905年）より1、2年古い形式の車両で、英国車の可能性が高い。

No.17は高橋是清の肖像写真。明治後期撮影と思われる。

（3）立憲政友会関係

高橋是清は1913年（大正2）、第一次山本内閣の大蔵大臣就任と同時に立憲政友会（以下、政友会）に入党し、政治家としての活動を始めた。1918年には原敬内閣の大蔵大臣に就任し、1921年、原が暗殺された後を受けて内閣総理大臣に就任した。分裂騒ぎなどでその任期は短かったが、その後、1924年に沸き起こった第二次護憲運動では、政友会総裁として護憲三派の中核となって活動した。

No.18は4日前の1924年1月18日、護憲三派を結成した三党首が上野精養軒で行った憲政擁護懇親会。左から加藤高明（憲政会）、高橋是清（政友会）、犬養毅（革新倶楽部）。

「清浦内閣打倒」を目指す護憲三派の活動は同年5月の総選挙で実を結び、加藤高明内閣がうまれた。No.19は大日本自転車工業社長で憲政会創立者のひとり、岡崎九次郎の邸宅に集まった護憲三派の各党首などの写真。前列中央が加藤高明、向かって左が是清、加藤の後ろが浜口雄幸（憲政会）。前列左端が岡崎久次郎カ、右から二番目は若槻礼次郎（憲政会）、右端は第二次護憲運動を推進した立憲政友会幹部、岡崎邦輔。

No.20は青森県盛岡市大慈寺へ原敬の墓参りに行った高橋是清と田中義一。田中が首相に就任した1927年（昭和2）に撮影されたと思われる写真。2人の背景に原敬の墓碑（灯籠形）がみられる。

(4) 老年期

No.21は私邸の縁側で色紙に揮毫する高橋是清。No.22、23は芝生の庭に籐椅子とテーブルを出して新聞を読む是清。縁側の先に芝生の庭、その先には日本庭園が広がっていた。1927年(昭和2)3月、東京日日新聞の取材対応時の写真。

No.24は私邸の和室にてメモを取る是清。No.25は日曜の朝、縁側から庭に降り、3人の孫と話す是清。No.26は食堂で家族と長いダイニングテーブルで食事する是清。背後の壁面には大きな絵画が設置されている。食堂は現在、展示室として利用している。No.27、28は一階の十二畳で洋風の朝食を摂る是清。食堂と同じく白いテーブルクロスを掛けている。品夫人によれば⁹⁾、晩年の是清の生活は大変規則正しく、以下のタイムテーブルを二・二六事件で遭難する前日まで続けていたという。

5時半起床、朝食、9時官邸へ、12時帰宅、13時官邸へ、17時帰宅、18時夕食、

19時書斎でラジオニュースを聴きながら〔書類〕整理・読書、22時就寝。

No.24から28は1933年(昭和8)12月3日、東京日日新聞の取材対応時の写真。

No.29は同年12月20日、イタリアの無線研究家でラジオの父と言われるグリエルモ・マルコーニ夫妻が来日した時の写真。自邸の応接間に駐日イタリア大使とともにマルコーニ夫妻が訪れ、品夫人や家族が迎えている。長野によれば、是清の六男是彰は留学後、マルコーニの無線電信会社で働きながら技術を学んで帰国し、大倉商事無線電気部主任として活躍した。こうした繋がりからマルコーニ夫妻は来日時、是清邸を訪れたものと思われる(『波乱万丈』)。

No.30～No.34は主婦の友社の取材に対応し、私邸で家族との団らんの様子を撮影した写真。No.33の写真右下には現在も使われている社章が刻印されている。

No.35は私邸の庭で鉢植えに水やりをする是清。No.36は私邸玄関で礼装の是清を見送る家族。

No.37は私邸応接間で髭を整える是清と孫。No.38は同所で家族と歓談する是清。第一章で述べた「高橋是清邸復原図」によれば、応接間は食堂から廊下で南東方向につながっている洋間で、周囲に仏像が置かれている。この2枚は1934年(昭和9)4月13日、東京日日新聞の取材対応時に撮影されたもので、この日、大蔵大臣官邸の大臣室で来日中のモーリス・ロスチャイルド(パリ・ロスチャイルド家)と親しく話す様子も撮影されている(No.39)。この写真には二人のサインもみられる。是清が日本銀行副総裁の時、日露戦争の戦費調達のため、外貨建ての国債売り込みに奔走した時代から、パリ・ロスチャイルド家とのつきあいが始まり、肩書や立場が変わっても親密な関係が続いていた様子がうかがえる。

No.40は私邸の庭で鉢植えの菊を眺める是清。1934年9月28日撮影。斎藤実内閣が同年7月総辞職し、岡田啓介内閣が発足、是清は大蔵次官藤井真信を大蔵大臣に推し、自らは悠々自適の生活を送っていた時期である。しかし、藤井は同年11月、肺気腫で入院したため大臣を辞任し、是清は6度目の大蔵大臣就任となり、忙しい日々がまた始まった。

No.41は大蔵大臣官邸への出勤の様子。この日の是清はソフト帽にフロックコート、スーツを着用している。洋装の女中が見送り、秘書が後ろに従っている。玄関の特徴的な扉も見えている。東京日日新聞の取材対応時の写真。

No.42から51は、1934年12月20日、岡田内閣の大蔵大臣就任から1か月という時期、東京日日新聞が

是清を大蔵大臣官邸で密着取材した時の写真。官邸で職員の出迎えを受け（No.42）、廊下を歩き（No.43）、大臣室に到着して新聞を読む（No.44）という一連の行動が撮影された。No.45からNo.49は津島寿一次官や谷口秘書課長らと別のカメラに向かって、官邸大臣室における撮影取材を受ける様子を撮影した、いわば舞台裏の写真。No.50は是清の密着取材の続きで、官邸を出て車に乗り込むところ、No.51は私邸前で車を降り、門から邸内に入るところ。手前は出迎えの書生か。

No.52は1935年（昭和10）6月、大蔵大臣官邸大臣室にて、深井英五日本銀行総裁と会談する是清。深井はかつて是清が日露戦争戦費調達に奔走した時に秘書として欧米への長期出張に同行した。

No.53、54は大礼服姿の是清。1927年（昭和2）6月3日、勲一等旭日桐花大綬章その他を佩用している。54は眼鏡をはずし、大礼帽も画面から外れ、斜めからのショットで、53よりややくだけた印象の一枚。

No.55は宮中から賜った鳩杖をもつ礼装の是清。勲一等旭日桐花大綬章を佩用している。1935年1月に鳩杖を拝受し、6月に撮影された。鳩杖は功労のあった老臣を慰労するため宮中から下賜される杖。持ち手の部分に銀の鳩を象った彫刻を乗せる。近代では明治政府の元勲を中心に80歳以上の限られた政治家などに贈られた。なお、この鳩杖も「高橋是清関係資料」として「本館」に収蔵されている。No.53から55はいずれも大型の額入り写真で、1941年（昭和16）に竣工した「高橋是清翁記念館」で展示されたものと推測される。

おわりに

（1）展示の成果

本稿第I章では、「園」の「高橋是清邸」内食堂において筆者がこれまで行った展示についてまとめた。ここまで展示を行ってきた成果としては、以下の三点があげられる。

まず、赤坂表町にあった高橋是清邸の全貌と「仁翁閣」の位置関係を開園以来初めて示すことができた点である。井上氏からご寄贈いただいた邸宅平面復元図（初公開）と「本館」所蔵の邸宅が写っている写真をフル活用した【展示パネル8】を展示することにより、もとの邸宅の規模や住まい方、多磨霊園に移築されて「仁翁閣」となった部分は全体のうちのどこなのかを示すことができた。また、二・二六事件における是清邸襲撃の際の叛乱軍や是清邸内の人の動きが【展示パネル13】によって明確となった。

二点目は、今回の「歴史展示」によって、「本館」の収蔵資料の活用を図ることができた点である。たとえば、「幼少期からペルー銀山開発まで」（H26-1）で「仁翁閣」に遺された「高橋是清関係資料」（以下、「関係資料」と略す）の中から、「委任状（高橋是清 ペルー共和国内にて農業従事に関する事項につき）【口絵23～25】」と「株金領収書【口絵26】」を展示した。従来の展示では、高橋是清の生涯にとっては不名誉な経験となったペルー銀山開発については展示項目に含まない方針だったためか、H26-1での展示が初公開となった。自身の不名誉な経験にまつわる資料もきちんと保存してきた是清に敬意を表して展示した。これがきっかけとなって、高橋是清のペルー銀山開発に関する著書『銀嶺のアンデス 高橋是清のペルー銀山投資の足跡』（日本語及びペルー語版）を2014年10月に出版された五味篤氏から

翌年1月、上記の図書をご寄贈いただき、その後の交流が続いている。今後の展示では、五味氏にご協力を仰ぎ、ペルー銀山開発に関する内容を深めていきたい。

その他、「日本銀行、横浜正金銀行時代」(H25-3)では、求職中だった高橋是清が、日本銀行本館建設事務所の仕事を果たしたことに因んで「日本銀行落成之図【口絵29】」を展示したところ、この資料も意外にも初公開だった。また、高橋是清が日本銀行西部支店長として日清戦争の軍事公債募集に奔走したことと関連して、「日清戦争軍資金寄附感謝状【口絵30】」を展示した。「本館」の展示項目に日清戦争がないためか、この資料も初公開となった。感謝状を贈られた奥八郎衛門は日枝神社の一画にあった星岡茶寮を設立したうちの一人であり、寄贈された資料群の中には星ヶ岡茶寮に関する文献も含まれている。さらに、翌年の「日本銀行、横浜正金銀行時代」(H26-2)に於いて、露出展示を避けるため、専用の展示ケースを製作して展示した「高橋是清木像【口絵33、34】」も、外部の貸し出し実績(衆議院憲政記念館、博物館明治村)はあるものの、「本館」及び「園」としては初公開となった。展示室(食堂)の雰囲気に合わせたデザインで制作した展示ケースを設置すると、違和感なく納まった。

これらの資料を公開できたことは「本館」、「園」の両者にとって意義深いことといえる。公開により、さまざまな情報やつながりを得るきっかけともなる。

三点目は、展示した「本館」収蔵資料の情報整備を図ることができた点である。例をあげれば、「日本銀行、横浜正金銀行時代」(H25-3)の際、高橋是清の年譜パネル【展示パネル集成7】に「高橋是清木像【口絵33、34】」の写真を掲載する時点で、作者のデータが入っていなかった。そこで、本資料の由来を説明する「御肖像(高橋是清)贈呈記」の巻頭言【口絵35】の記述により、情報を追加した。また、完成後、木像とともに贈られた「高橋是清木像目録【口絵36】」は木像の付属品として足元に収蔵され、そこに記されている情報は資料化されていなかった。目録に記された年代により、高橋是清木像が贈呈された年を製作年として情報を訂正した。また、「幼少期からペルー銀山開発まで」(H26-1)で「高橋是清と異父妹かねの写真【高橋是清関係写真4】」を展示する際、収蔵資料データは「高橋是清と妻」となっていたが、『自伝』の口絵等を参考に、「高橋是清と妹かね」に修正した。

こうした情報の不備は、システム上でのチェックのみでは認識すらできず、資料の展示や目録整備など、個々の資料に向き合う機会に行わざるを得ない。31万点余りの標本資料、4万点余りの映像資料(2015年3月現在)を収蔵する「本館」において、こうした情報整備は気の遠くなるような地道な作業だが、博物館の使命でもある¹⁰⁾。

(2) 課題と展望

一連の展示について、課題は以下の三点である。

一点目は、「歴史展示」といいながら、「関係資料」のうち、書簡や日記などの文書資料を読み込んで分析する作業を行っていない点である。文書資料の分析には文書の翻刻、マイクロフィルムへの撮影が必要となる。幸い、今年度、「本館」で上記文書資料がマイクロフィルム撮影され、来年度から図書室で公開されることとなった。今回マイクロフィルム撮影されたのは、1894年(明治27)及び1896年の高橋是清当用日記や8件の書簡を含む19件の資料である。これらの文書資料の公開により、その存在が一

般に知られ、活用されることは意義深い。今後は、これらの翻刻や読み込みを進めて、その分析により、展示の内容を深めていきたい。

なお、高橋是清に関する文書資料のうち、国立国会図書館憲政資料室所蔵の「高橋是清関係文書」と首都大学東京図書館本館所蔵の「高橋是清関係文書（貴重資料）」はそれぞれまとまったコレクションであり、マイクロフィルムにより公開されている。これらの参照及び「本館」所蔵資料との比較研究によって、展示の内容を深める必要がある。とくに後者は、1949年（昭和24）に東京都建設局から都立大学に移管された資料であり、マイクロフィルムの目録によれば、その一部には「本館」所蔵の写真資料【高橋是清関係写真リスト11～16】にみられる「高橋是清翁記念館文庫」のラベルが貼られているという。「本館」所蔵資料との対照調査を詳細に行うことによって、「関係資料」の成り立ちやその後の動きの一端を知ることができると思われ、非常に興味深い。

二点目は、「高橋是清邸」見学者にとってもっとも関心が高い場所は、主屋二階の是清の寝室と書斎（二・二六事件における遭難現場）であるにも関わらず、今回の一連の展示成果を通年で公開していない点である。当時の叛乱軍の動きや事件関連年表は2月の後半から5月前半まで食堂で展示しているのみで、この時期以外の見学者は見るできない。この課題の解決策として、上記パネルデータを加工して、主屋二階（和室）に設置する予定である。将来的にはこうした成果も含めた「高橋是清邸」に関するデータベースを構築する構想もある。

三点目は、大型の立体資料・書軸等が紹介できない点である。開園以来、展示は食堂を展示室として行っている。室内に設置されている覗き型ケース4台とその背後の展示壁を利用しており、展示できる資料は、ケースに入る大きさの遺品類（鞆、ステッキ、眼鏡等）や文書資料、絵葉書、版画等に限定される。「関係資料」の中に、【高橋是清関係写真37】で是清の背後に写っている、高さ1m30cmを測る釈迦如来像（91003025）や【高橋是清関係写真31】で是清の孫の背後に写っている、高さ74.5cmの達磨大師木像（91003031）をはじめ、各種仏像類、是清の胸像等、覗き型ケースでは展示できない立体資料が10数点ある。是清が美術・骨董品収集を趣味としていたことは知られているが、その一部が散逸せずに「本館」に所蔵されている事実はあまり知られていない。また、是清の筆による書を軸装した資料も数点あるが、場所の制約から公開できていない。今後、ウォールケースを備える展示室で公開する機会を持てるように努めたい。

第Ⅱ章では、「関係資料」のうち写真資料を年代ごとに集成した。集成にあたり、写っている人物の特定に務めた結果、『自伝』の口絵に示されている写真の年代に疑問を持つ資料が数点あった。たとえば【高橋是清関係写真1】は写っている人物の動向から、1873年（明治6）ではなく、1871年の撮影と推定される。また、【高橋是清関係写真8】は是清の頭髪の性質や身なりから、日本銀行総裁就任時ではなく、ペルー銀山開発に失敗し、失職していた浪人時代のものと推測される。

【高橋是清関係写真12～16】は写真の裏書から1905年（明治38）4月7日、ニューヨーク州の郊外スカボローで撮影されたものであることが判明した。写っている人物は、高橋是清1936の口絵写真のうち、「日露戦役当時戦費募債の為にロンドン滞在中」に写っている人物とほぼ一致していたため、人物の特定ができた。今後、【高橋是清関係写真14～16】に写っている自動車の特定、スカボローに行った目的

など調査を進めたい。

晩年の写真の大半は新聞・雑誌の取材に対応した際のものであった。平均寿命が50歳に満たない昭和初期、80歳を過ぎても現役の大蔵大臣として活躍する高橋是清は、「ダルマさん」のニックネームで親しまれ、新聞・雑誌の取材を受けることもしばしばだったことがうかがえる。

なお、「関係資料」の中には、多磨霊園を企画・構想し、大正末期から昭和前期の東京市の公園行政をリードした井下清が多磨霊園に寄贈した資料（井下の母が用いた文房具、父の肖像画、東京市電気局長長尾半平肖像画をはじめ各種書画）、東京市長経験者、永田秀次郎の書等、東京市関係職員の関係資料が20点以上含まれている。こうした資料は「仁翁閣」に収蔵・展示されていたものなのかも知れないが、是清関係資料とは一線を画す必要がある。今回は写真資料に限定して是清関係の資料を集成したが、今後、残りの資料の精査に努めたい。

本稿の作成にあたり、次の方々、機関にご協力をいただきました。ここに深く御礼を申し上げます。

石黒里美 石黒由美子 井上泰 開成学園 共同通信社 公益財団法人東京都公園協会
主婦の友社 トヨタ博物館 日本銀行金融研究所貨幣博物館 毎日新聞社
明治学院歴史資料館 横浜開港資料館

(敬称略・五十音順)

【註】

- 1) 「歴史展示」とは、文献や地図、記録写真などの実物資料やそれらをもとに作製した解説パネルにより、歴史的アプローチで行う展示を指す。「園」は野外博物館であり、展示の主体は30棟からなる復元建造物である。これらのみどころは、その建造物の建築的な特徴やその家や店舗での暮らしぶりを中心となっており、いわば建築学的及び民俗学、社会学的アプローチによる展示を主体としているなか、あえて歴史的アプローチを心がけて12回の展示を行った。
- 2) 「仁翁閣」を多磨霊園から移築する際、同所の霊安室に保管されていた「関係資料」が合わせて建設局から生活文化局に移管され、「本館」の所蔵資料となった。このうち、是清が晩年使用していた眼鏡(48)、通勤カバン、ステッキ、是清木像【口絵53】、2月26日の日めくりカレンダー【口絵55】、是清が邸宅の庭で新聞を読んでいる写真【高橋是清関係写真22】、家族で是清の外出を玄関で見送る写真【高橋是清関係写真36】、1階和室で朝食を摂っている写真【高橋是清関係写真27】、家族と食堂で夕食を摂っている写真【高橋是清関係写真26】、是清のプライベート空間であった2階寝室と書斎の写真などを開館以来展示していた。
- 3) この時点では、過去にも「本館」所蔵の歴史資料を活用した展示が行われていたことを筆者は知らなかった。「園」が「本館」の分館であることの認知度を上げることも意図して、「本館」の資料を積極的に活用した「歴史展示」を企画した。
- 4) 平成26年度、平成27年度の2か年、高橋是清邸内展示の年間計画を以下のように策定して実施した。第一期「幼少期からペルー銀山開発まで」、第二期「日本銀行・横浜正金銀行時代」、第三期「政治家高橋是清」、第四期「二・二六事件と高橋是清邸」。各年度の会期については第一章参照。
- 5) 「園」の復元建造物、「高橋是清邸」は、もとの邸宅のうち、二階が是清の居住空間であった主屋部分と玄関を、休憩所の体裁に収まるように位置を付け替えた「仁翁閣」をほぼそのまま多磨霊園から移築したものである。筆者は「高橋是清邸」の担当となって以来、もとの邸宅の全貌と、「仁翁閣」はそのうちのどこにどのように位置するのかという点が気になっていた。そこで、これを明らかにする平面図をパネル展示すべく、調査を行った。

東京市公園課が「高橋是清翁記念公園」を整備するにあたって1941年(昭和16)に作成した旧邸宅の図面は、公益財団法人東京都公園協会が所蔵している。当初はこのうち「高橋是清邸建物平面図(一階)」を基図として赤坂にあっ

た旧高橋是清邸の平面図復元パネルを作成した。ただし、本図は邸宅の北側（書生の部屋があった部分）、青山通りに面した門から玄関、食堂からつながる応接間部分の一部が欠損しており、この部分は想定で作成せざるをえなかった。それでも、関係資料として寄贈された写真のうち図面と照合できるものを配して作成したのが【展示パネル2】であった。

2013年（平成25）春、月刊雑誌『歴史群像』から高橋是清の特集企画の取材を受け、展示中のパネル【展示パネル2】のデータを提供し、2月号（第117号）に掲載された。ご自身も同誌に寄稿された是清の遺族、井上泰氏より編集部を通じて、この平面図は正しくないとのこと指摘を受けた。そして、後日同氏より、「高橋是清邸復原図」の存在をご教示いただき、その画像データを「園」にご提供いただいた。これは、1982年（昭和57）に複数の遺族のご記憶により邸宅の部屋の配置や名称を復元され、専門家に建築図面作成を依頼されたものだった。早速、いただいた平面図を基図として【展示パネル2、3】を【展示パネル8、13】に修正し、前者は第三期（H25-3）より、後者は第五期（H25-5）より修正版を展示した。

後日、青焼図面自体もご寄贈いただき、「本館」に収蔵した。

井上泰氏から寄贈された平面図によれば、東京市が寄贈を受けた当時の高橋是清邸は約2,000坪の敷地に二階建ての主屋を中心に、北側に書生部屋が並ぶ平屋、南西に三階建てが廊下で繋がっている豪邸だった。主屋の廊下に面して芝生の庭が広がり、その南に石灯笼や石造物を配した日本庭園が造られていた。

- 6) 1925年（大正14）4月、懸案だった農商務省の農林省・商工省への分離を果たすと、同月17日、是清は大臣職を辞し、政友会総裁も田中義一に譲り、71歳で一旦、政界を引退した。
- 7) 高橋是清1936の編集の過程で、掲載写真のキャプション作成のため、名前が記されたものと思われる。
- 8) 明治の化学者、技官。旧福井藩士で、大学南校から1871年（明治4）米国ツロイン大学に留学し、化学、染色法を修める。1875年（明治8）帰国後、文部省採用、東京開成学校、東京大学で化学を教授。1881年（明治14）4月、農商務省御用掛兼務（参考文献奥山参照）。
- 9) 「高橋夫人談話」『大阪朝日新聞号外 二・二六事件の詳報』（1936年3月22日）
- 10) 全館の資料情報を管理するセクションでは、各係からの訂正依頼を受けて組織で精査し、必要と認められた場合、情報を訂正（追加）している。

参考文献

- 赤坂区役所 1941 『赤坂区史』
- 板谷敏彦 2012 『日露戦争、資金調達のための戦い－高橋是清と欧米バンカーたち』新潮社発行
- 伊藤隆他 1995 『新訂 二・二六事件 判決と証拠』朝日新聞社発行
- 奥山秀範 2002 「染織の先駆者達 山岡次郎」『越前 若狭歴史回廊』Web
- 講談社 1989 『昭和二万日の全記録 第三巻 非常時の日本』
- 講談社 1989 『昭和二万日の全記録 第四巻 日中戦争への道 昭和10年..12年』
- 小森陽一他 2004 『日露戦争スタディーズ』紀伊國屋書店発行
- 高橋是清 1936 『高橋是清自伝』上塚司編、千倉書房発行
- (有) 龍居庭園研究所 1993 『旧高橋是清邸庭園調査報告書』
- 東洋経済新報社 1975 『明治大正財政詳覧』
- 長野広生 1979 『波乱万丈 高橋是清 その時代』東京新聞出版局発行
- 日本銀行百年史編纂委員会 1982 『日本銀行百年史 第一巻』日本銀行発行
- 日本銀行百年史編纂委員会 1983 『日本銀行百年史 第二巻』日本銀行発行
- 松本清張 1976-1993 『二・二六事件 研究資料 I～III』文藝春秋社発行
- 港区立港郷土資料館 2007 『港区人物誌 三 高橋是清』港区教育委員会発行
- 三和良一他 2010 『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会発行
- 湯本豪 2010 『図説・円と日本経済 幕末から平成まで』国書刊行会発行
- 横浜開港資料館 2013 『企画展宣教医へボン～ローマ字・和英辞書・翻訳聖書のパイオニア展図録』横浜開港資料館発行

【展示概要リスト】

展示年度・期数	タイトル	会期	章	章タイトル	資料番号	展示資料・パネル	作者	年代	所蔵		
H25-1	高橋是清邸と二・二六事件	2013.2.9.-2013.5.12	序章 第一章	高橋是清プロフィール 藩邸から高橋是清邸へ		高橋是清プロフィール (パネルA)					
						高橋是清邸平面図 (パネル1)					
			第二章	二・二六事件と高橋是清邸		高橋是清邸における叛乱軍の動き (パネル3)					
						二・二六事件号外 (時事新報)	時事新報社	1936.2.26	松田洋子氏		
					05650945	高橋是清葬儀写真 (築地本願寺) (パネルB)				1936.3.26	
					90007271	絵葉書 庭園全景 (高橋是清翁記念公園)				1941.6.	江戸東京博物館
					90007270	絵葉書 仁翁閣 (多磨墓地休憩所)				1941.6.	江戸東京博物館
			第三章	二・二六事件 通説と真相		颯起趣意書 (口絵57)	野中四郎他	1936.2.26	江戸東京博物館		
						陸軍大臣告示 (口絵58)		1936.2.26	江戸東京博物館		
							89004366	二・二六事件号外 (朝日新聞号外)	東京朝日新聞社	1936.2.29	江戸東京博物館
				89004365	「下士官兵二告グ」ピラ (口絵59)	戒嚴司令部	1936.2.29	江戸東京博物館			
				05650954	「勅令下る軍旗に手向かうな」アドバレン写真	同盟通信社	1936.2.29	江戸東京博物館			
H25-2	政治家高橋是清	2013.5.14-2013.9.1.	第一章	蔵相・首相就任と政友会活動		高橋是清プロフィール (パネルA)					
						高橋是清邸平面図 (パネル2)					
					91003027	第二次護憲運動と高橋是清 (パネル4)	山本権兵衛	1913.2.20	江戸東京博物館		
					91003026	大蔵大臣辞令 (山本権兵衛第一次内閣) (口絵39)	原敬	1918.9.29	江戸東京博物館		
					99001973	護憲三派の漫画 (『時事新報 時事漫画』) (口絵41)	北澤栄天	1924.3.	江戸東京博物館		
					91003028	「内閣総理大臣たる前官の冷遇を賜う」辞令 (口絵42)	加藤高明	1925.4.18	江戸東京博物館		
			第二章	金融恐慌と是清の対応		昭和初期の金融恐慌と高橋是清 (パネル5)					
						乙二百万券 (複製・原資料日本銀行貨幣博物館所蔵) (口絵43)	日本銀行	1927.4.	江戸東京博物館		
					89206782	「置置く(七億)で達磨さんより銀行起き上がり」(口絵44)	北澤栄天	1927.5.22	江戸東京博物館		
						「時事漫画第312号」表紙					
第三章	四度目の蔵相就任から二・二六事件まで		高橋是清とその前後 (パネル6)	丸善株式会社	1935.3	江戸東京博物館					
			新相 3月号	丸善株式会社	1935.4	江戸東京博物館					
		87518013	シャネルの香水のカタログ『流行新相』4月号	丸善株式会社	1935.4	江戸東京博物館					
		91002942	「高橋是清所用」眼鏡 (口絵48)		昭和前期	江戸東京博物館					
H25-3	日本銀行・横浜正金銀行時代	2013.9.3-2013.12.26.	第一章	日本銀行本館建設と高橋是清		高橋是清年譜 (パネル7)					
						日本銀行落成之図 (口絵29)	篠原清典	1896	江戸東京博物館		
						日本銀行本館絵葉書 (口絵28)		明治後期	江戸東京博物館		

H25-4	2014.1.7-2014.2.21	是清が愛した品々	第二章 日本銀行西部支店長時代 - 日清戦争資金調達 -	88106487	絵葉書 常盤橋付近日本銀行ノ美観			明治後期	江戸東京博物館			
				07650147	竣工前の日本銀行本館 (口絵27)			1892	江戸東京博物館			
				91002977	02004226	当用日記 明治27年 日清戦争軍資寄附感謝状 (口絵30)	高橋是清			1894	江戸東京博物館	
							東京府知事			1897.6.1	江戸東京博物館	
				第三章	横浜正金銀行副頭取時代 - 世界各国の支店視察と外債募集調査 -	91003227	海外視察関連年表 (解説)					
						91003266	記念写真 ナイアガラにて			1898.8.11	江戸東京博物館	
						91003267	海外視察写真 自動車に乗る是清					
							日露戦争と外債募集 (戦費調達) (パネル10)			1905.4.7	江戸東京博物館	
				第四章	日本銀行副總裁時代 - 日露戦争資金調達の旅 -	87102638	日露戦争大猿退治 (口絵32)			1904.11.1	江戸東京博物館	
						01000338-341	絵葉書 日露戦争風刺画	榎本松之助		明治後期	江戸東京博物館	
				第一章	是清の名刺と書斎の愛用品	91003235	高橋是清年譜 (パネル7)					
						06970005	「色紙にサインする是清」写真 高橋是清名刺 (貴族院議員) (口絵37・38)			明治後期	江戸東京博物館	
						06970006	高橋是清名刺 (日本銀行副總裁) (同上)			同上	江戸東京博物館	
						06970007	高橋是清名刺 (日本銀行総裁) (同上)			同上	江戸東京博物館	
						06970008	高橋是清名刺 英字 (同上)			同上	江戸東京博物館	
						06970009	高橋是清名刺 (同上)			同上	江戸東京博物館	
						91002947	是清所用筆 (口絵50)			[大正~ 昭和前期]	江戸東京博物館	
						91002948	是清所用筆 (同上)			同上	江戸東京博物館	
						91002951	是清所用筆 (同上)			同上	江戸東京博物館	
						91002952	是清所用筆 (同上)			同上	江戸東京博物館	
						91002954	是清所用筆 (同上)			同上	江戸東京博物館	
91002955	是清所用筆 (同上)					同上	江戸東京博物館					
91002944	是清所用水滴 (布袋像) (口絵51)					同上	江戸東京博物館					
91003034	高橋是清邸平面図 (パネル8)											
第二章	「だるま」と高橋是清	88125382	達磨木像 (口絵53)			[大正~ 昭和前期]	江戸東京博物館					
		91003255	達磨木像 (口絵53)	岡本一平/画			江戸東京博物館					
第三章	龍の文房具	91003255	高橋是清所蔵達磨像写真 (解説)									
		91002945	「高橋是清と孫」写真 (パネルC)			1935	江戸東京博物館					
第四章	愛用の食器類	91003092	龍文筆立 (口絵52)			[大正~ 昭和前期]	江戸東京博物館					
		91002965	龍彫金置物 (口絵54)			同上	江戸東京博物館					
		91002966	花輪文食器 皿 (口絵45)			同上	江戸東京博物館					
		91002967	花輪文食器 皿 (同上)			同上	江戸東京博物館					
		91002968	花輪文食器 皿 (同上)			同上	江戸東京博物館					
		91002969	花輪文食器 小鉢 (同上)			同上	江戸東京博物館					

H25-5	二・二六事件と高橋是清邸	2014.2.22-2014.5.11	第一章	二・二六事件前史	91002970	花輪文食器 小鉢〈同上〉				同上	江戸東京博物館			
					91002971	花輪文食器 茶碗〈同上〉				同上	江戸東京博物館			
					91002972	「西庵」染付徳利〈口絵49〉					同上	江戸東京博物館		
					91002963	磁器湯呑					同上	江戸東京博物館		
					91002964	「西庵」染付湯呑〈口絵47〉					同上	江戸東京博物館		
					91213455	二・二六事件関連年表〈パネル11〉 騰起趣意書				野中四郎他	1936.2.26	江戸東京博物館		
			第二章	二・二六事件と高橋是清邸			91002941	高橋是清邸における叛乱軍の動き〈パネル12〉				1936.2.26	江戸東京博物館	
							91003263	高橋是清所用日めくりカレンダー〈口絵55〉						
							92001916	高橋是清邸「書斎と居間」写真					昭和前期	江戸東京博物館
							05650926-8	二・二六事件号外					1936.2.26	江戸東京博物館
							90007271	「事件後の是清邸」写真						江戸東京博物館
							90007270	庭園全景(高橋翁記念公園)					1941.6.	江戸東京博物館
							90007270	仁翁閣(多磨墓地休憩所)					1941.6.	江戸東京博物館
							90007269	絵葉書 高橋是清翁銅像					1941.6.	江戸東京博物館
			第三章	二・二六事件 襲撃事件概要				襲撃事件概況図(パネル13、パネル13改訂)						
							87510015	アサヒグラフ臨時増刊二・二六事件					1935.7.25	江戸東京博物館
							90000018	二・二六事件第三号外 岡田首相存命					1936.2.29	江戸東京博物館
			第四章	襲撃事件後の動き				2月26日～30日の動き(パネル14)						
							91213424	二・二六事件 陸軍大臣告示					1936.2.26	江戸東京博物館
				89004366	二・二六事件号外					1936.2.29	江戸東京博物館			
				89004365	「下士官兵二告グ」ビラ					1936.2.29	江戸東京博物館			
				05650954	「勅令下る軍旗に手向かうな」アドバ ルーン写真					1936.2.29	江戸東京博物館			
				05650805	「新橋土橋上の鎮圧部隊」写真					1936.2.29	江戸東京博物館			
				05650803	「歩兵第三連隊に帰營する叛乱軍下士 官と兵隊」写真					1936.2.29	江戸東京博物館			
					高橋是清年譜(パネル7)									
					高橋是清邸平面図(パネル8)									
H26-1	幼少期からべルー銀山開発ま で	2014.5.13-2014.8.31	第一章	横浜での英語修行時代	90210481	高橋是清年譜(パネル15、パネル7改訂)								
						御開港横浜之全図								
						谷戸橋とへボン邸				橋本貞秀/画	1860	江戸東京博物館		
						へボン塾の中院に集うへボン塾の子供 たちとクララ(へボン夫人)					1870.3.1	横浜開港資料館		
						和英語林集成					1874.75	横浜開港資料館		
			第二章	文部省出仕から共立学校経営 まで			91220745	高橋是清と妹かね写真				1867	江戸東京博物館	
							91003226	共立学校校長時代写真				1875	江戸東京博物館	
							91003223	へボン館写真(へボン館・炎上するへ ボン館)				1878	江戸東京博物館	
								へボン館写真(へボン館・炎上するへ ボン館)				1887	明治学院歴史資 料館	
												1911.9.21	料館	

H26-2	日本銀行・横浜正金銀行時代	2014.9.2-2014.12.21.	第三章 農商務省時代	88137217	絵葉書 農商務省庁舎 (口絵22)	農商務省庁舎	明治後期	江戸東京博物館
			88137359	絵葉書 農商務省庁舎 高橋是清家族と住居の系譜 (パネル16-1)	農商務省庁舎	明治後期	江戸東京博物館	
H26-3	政治家高橋是清	2014.12.23-2015.2.15	第四章 ペルー銀山開発へ	06970003	代理委任状 (高橋是清ペルー共和国内にて農業従事に関する事項につき)	ペルー共和国内にて農業従事に関する事項につき	1889.11	江戸東京博物館
			06970004	代理委任状 (高橋是清ペルー共和国内にて農業従事に関する事項につき)	同上	1889.11	江戸東京博物館	
			91002984-91003000	株金領収書	日秘鉱業会社創立事務所	1889-90	江戸東京博物館	
				高橋是清家族と住居の系譜 (パネル16-2)				
				高橋是清邸平面図 (パネル8)				
			第一章	86200122-4	高橋是清年譜 (パネル15) 日本銀行落成之図	高橋是清年譜 (パネル15) 日本銀行落成之図	1896	江戸東京博物館
				88138747	日本銀行本館絵葉書	日本銀行本館絵葉書	明治後期	江戸東京博物館
				88106487	絵葉書 常盤橋付近日本銀行ノ美観	常盤橋付近日本銀行ノ美観	明治後期	江戸東京博物館
				07650147	竣工前の日本銀行本館	竣工前の日本銀行本館	1892	江戸東京博物館
			第二章		日清戦争 関連年表、軍事費収支決算 (パネル9)	日清戦争 関連年表、軍事費収支決算 (パネル9)		
				91002977	当用日記 明治27年	当用日記 明治27年	1894	江戸東京博物館
				91003266	海外税関関連年表 (解説)	海外税関関連年表 (解説)		
第三章		87102638	記念写真 ナイアガラにて 高橋是清邸平面図 (パネル8)	記念写真 ナイアガラにて 高橋是清邸平面図 (パネル8)	1898.8.11	江戸東京博物館		
第四章			日露戦争大策退治	榎本松之助	1904.11.1	江戸東京博物館		
			日露戦争と外債募集 (戦費調達) (パネル10)					
		91003053	御肖像 (高橋是清) 贈呈記 (口絵36)	横浜正金銀行行員有志	1912.5	江戸東京博物館		
		91003052	高橋是清木像 (口絵33・34)	米原雲海	1914	江戸東京博物館		
		[91003052]	高橋是清木像寄贈目録 (口絵35)	横浜正金銀行行員有志	1914.5	江戸東京博物館		
第一章			高橋是清年譜 (パネル15)					
			第二次護憲運動と高橋是清 (パネル4)					
		91003027	大蔵大臣辞令 (山本権兵衛第一次内閣)	山本権兵衛	1913.2.20	江戸東京博物館		
		91003026	大蔵大臣辞令 (原敬内閣)	原敬	1918.9.29	江戸東京博物館		
		99001973	護憲三派の漫画 (『時事新報 時事漫画』)	北澤榮天	1924.3.	江戸東京博物館		
		91003028	「内閣総理大臣たる前官の冷遇を賜う」表彰状	加藤高明	1925.4.18	江戸東京博物館		
第二章			昭和初期の金融恐慌と高橋是清 (パネル5)					
		96900001-2	乙二五円券 (複製・原資料日本銀行貨幣博物館所蔵)	日本銀行	1927.4.	江戸東京博物館		

H26-4	二・二六事件と高橋是清邸	2015.2.17-2015.5.10	第三章 四度目の蔵相就任から二・二六事件まで	89206782	「質置く(七億)で達磨さんより銀行起き上がり」『時事漫画第312号』表紙	北澤楽天	1927.5.22	江戸東京博物館
				87518012	高橋財政とその後(パネル6)	丸善株式会社	1935.3	江戸東京博物館
				87518013	ハーバリーのコートのカタログ『流行新相』3月号	丸善株式会社	1935.4	江戸東京博物館
				91002942	シャネルの香水のカタログ『流行新相』4月号		昭和初期	江戸東京博物館
				91003052	是清所用眼鏡	米原雲海	1914	江戸東京博物館
					高橋是清木像			
					高橋是清邸平面図(パネル8)			
					二・二六事件関連年表(パネル11)	野中四郎他	1936.2.26	江戸東京博物館
					颯起趣意書			
					高橋是清邸における叛乱軍の動き(パネル12)			
					高橋是清所用日めくりカレンダー		1936.2.26	江戸東京博物館
					「書斎と居間」写真		昭和前期	江戸東京博物館
					二・二六事件号外	報知新聞社	1936.2.26	江戸東京博物館
					「事件後の是清邸」写真		1936.2.26	江戸東京博物館
H27-1	二・二六事件と高橋是清邸	2015.5.12-2015.8.30	第一章 横浜での英語修行時代	90007271	絵葉書 庭園全景(高橋翁記念公園)		1941.6.	江戸東京博物館
				90007270	絵葉書 仁翁閣(多磨墓地休憩所)		1941.6.	江戸東京博物館
				90007269	絵葉書 高橋是清翁銅像		1941.6.	江戸東京博物館
					襲撃事件概況図(パネル13)			
				87510015	アサヒグラフ臨時増刊二・二六事件	東京朝日新聞社	1935.7.25	江戸東京博物館
				90000018	二・二六事件第三号外 岡田首相存命	東京朝日新聞社	1936.2.29	江戸東京博物館
					襲撃事件後の動き			
				91213424	2月26日～30日の動き(パネル14)		1936.2.26	江戸東京博物館
				89004366	二・二六事件 陸軍大臣告示	東京朝日新聞社	1936.2.29	江戸東京博物館
					二・二六事件号外			
				89004365	「下士官兵二告グ」ピラ	戒嚴司令部	1936.2.29	江戸東京博物館
				05650954	「勅令下る軍旗に手向かうな」アドバレン写真	同盟通信社	1936.2.29	江戸東京博物館
				05650805	「新橋土橋上の鎮圧部隊」写真	同上	1936.2.29	江戸東京博物館
				05650803	「歩兵第三連隊に帰營する叛乱軍下士官と兵隊」写真	同上	1936.2.29	江戸東京博物館
	高橋是清年譜(パネル15)							
	高橋是清邸平面図(パネル8)							
	高橋是清年譜(パネル15)							
90210481	御開港横浜之全図	橋本貞秀/画	1860	江戸東京博物館				
	谷戸橋とヘボン邸		1870.3.1	横浜開港資料館				
	ヘボン塾の中庭に集うヘボン塾の子供たちとクララ(ヘボン夫人)		1874-75	横浜開港資料館				

H27-2	日本銀行・横浜正金銀行時代	2015.9.1-2015.12.25.	第二章	文部省出仕から共立学校経営まで	91220745	和英語林集成 へボン館写真 (へボン館・炎上するへボン館)	へボン	江戸東京博物館 明治学院	1887 1911.9.21
			第三章	農商務省時代	91003226 91003223	高橋是清と妹かね写真 共立学校校長時代写真 開成学園講堂に残る高橋是清揮毫の扁額写真		江戸東京博物館 江戸東京博物館 開成学園校史資料室	1875 1878
H27-3	政治家高橋是清	2016.1.2-2016.2.14	第三章	農商務省時代	88137217 88137359	絵葉書 農商務省庁舎 絵葉書 農商務省庁舎 高橋是清家族と住居の系譜 (パネル16-1)		江戸東京博物館 江戸東京博物館	[明治後期] 同上
			第四章	ペルー銀山開発へ	06970003 06970004 91002984 91003000	代理委任状 (高橋是清 ペルー共和国内にて農業従事に関する事項につき) 代理委任状 (高橋是清 ペルー共和国内にて農業従事に関する事項につき) 株金領収書 高橋是清家族と住居の系譜 (パネル16-2) 高橋是清邸平面図 (パネル8)	藤村紫朗他 同上 日秘鉱業会社 創立事務所	江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館	1889.11 1889.11 1889-90
			第一章	日本銀行本館建設と高橋是清	862001224 88138747 88106487 *07650147	日本銀行落成之図 日本銀行本館絵葉書 絵葉書 常盤橋付近日本銀行ノ美観 日本銀行本館建設中写真 日清戦争 関連年表、軍事費収支決算 (パネル9)	篠原清興	江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館	1896 明治後期 明治後期 1892
			第二章	日本銀行西部支店長時代 - 日清戦争資金調達 -		高橋是清名刺(貴族院議員) 高橋是清名刺 (日本銀行副総裁) 高橋是清名刺 (日本銀行総裁) 高橋是清名刺 英字 高橋是清名刺 日清戦争軍資金附感謝状		江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館	明治後期 同上 同上 同上 同上 1897.6.1
			第三章	横浜正金銀行副頭取時代 - 世界各国の支店視察と外債募集調査 -		日露戦争と外債募集 (解説) 欧米支店視察旅程 (解説) 記念写真 ナイアガラにて 自動車に乗る高橋是清写真 高橋是清邸平面図 (パネル8)		江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館	1898.8.11 1905.4.7
			第四章	日本銀行副総裁時代 - 日露戦争資金調達の旅 -		日露戦争大猿退治 高橋是清木像 御肖像 (高橋是清) 贈呈記写真	榎本松之助 米原雲海 横浜正金銀行 行員有志	江戸東京博物館 江戸東京博物館 江戸東京博物館	1904.11.1 1914 1912.5
			第一章	蔵相・首相就任と政友会活動		高橋是清年譜 (パネル15) 第二次護憲運動と高橋是清 (パネル4) 大蔵大臣辞令 (山本権兵衛第一次内閣)		江戸東京博物館 江戸東京博物館	1913.2.20

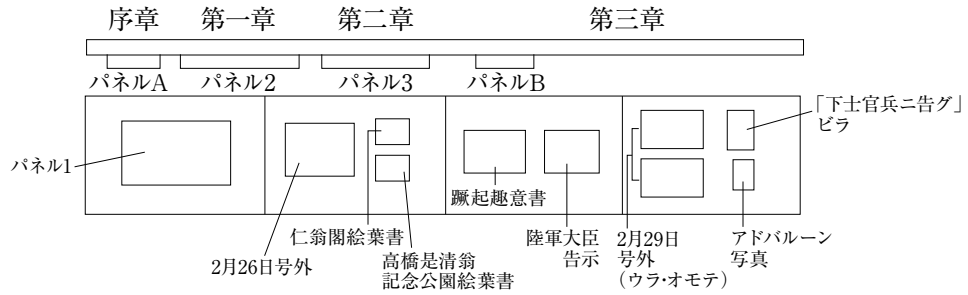
		91003026	大蔵大臣辞令 (原 敬内閣)			江戸東京博物館
		99001973	護憲三派の漫画 (『時事新報 時事漫画』)	北澤楽天	1918.9.29 1924.3.	江戸東京博物館
		[99001973]	漫画「政友会と政友本党の対決」(『時事新報 時事漫画』)			
		91003028	「内閣総理大臣たる前官の冷遇を賜う」表彰状		1925.4.18	江戸東京博物館
第二章	金融恐慌と是清の対応		昭和初期の金融恐慌と高橋是清 (パネル5)			
		96900001-2	乙二百円券 (複製・原資料日本銀行資料館所蔵)		1927.4.	江戸東京博物館
		89206782	「質置く(七億)で達磨さんより銀行起き上がり」 『時事漫画第312号』表紙	北澤楽天	1927.5.22	江戸東京博物館
第三章	四度目の蔵相就任から二・二六事件まで		高橋財政とその前後 (パネル6)			
		87518012	バーバリーのコートのカタログ『流行新相』3月号	丸善株式会社	1935.3	江戸東京博物館
		87518013	シャネルの香水のカタログ『流行新相』4月号	丸善株式会社	1935.4	江戸東京博物館
		91002942	是清所用眼鏡		昭和初期	江戸東京博物館
		91650164	鳩杖を持つ正装の高橋是清写真		1935.6	江戸東京博物館
		91003052	高橋是清木像	米原雲海	1914	江戸東京博物館
		91003053	御肖像 (高橋是清) 贈呈記写真	横浜正金銀行 行員有志	1912.5	江戸東京博物館
			高橋是清邸平面図 (パネル8)			

※パネルA、B、Cは前任者が製作した壁掛式の写真パネル。これら以外、リスト中の「パネル」は【表I-3】及び【資料I-3】のパネル番号に対応する。

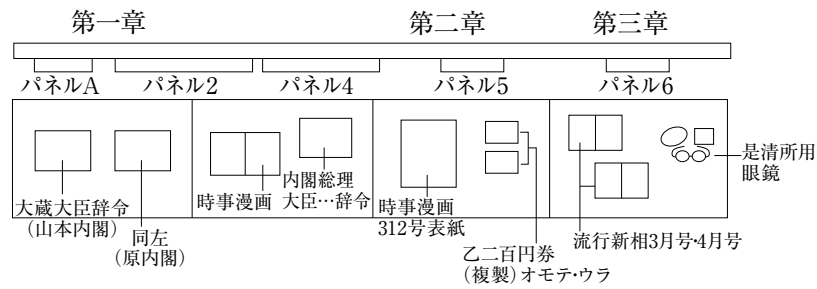
※リスト中の「口絵○○」は【表I-2】及び口絵に対応するため、初出のみ表記した。

※リスト中の「写真○○」は【表II-1】及び【資料II-1】に対応する。煩雑を避けるため、初出のみ表記した。

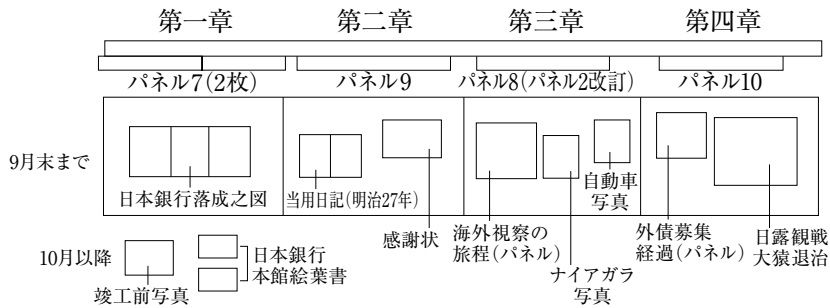
【展示平面図】



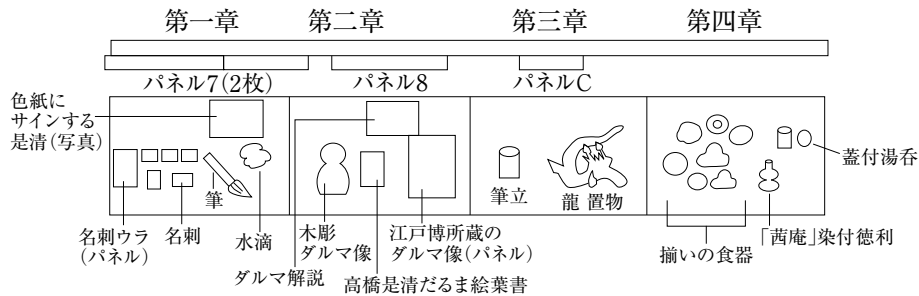
H25-1 高橋是清邸と二・二六事件



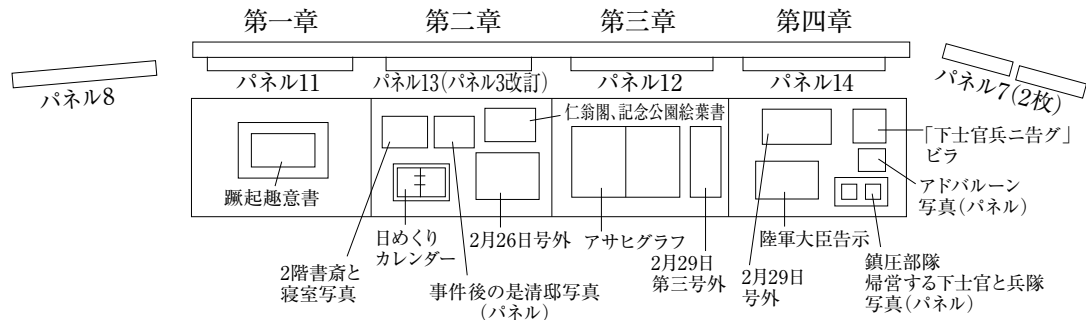
H25-2 政治家高橋是清



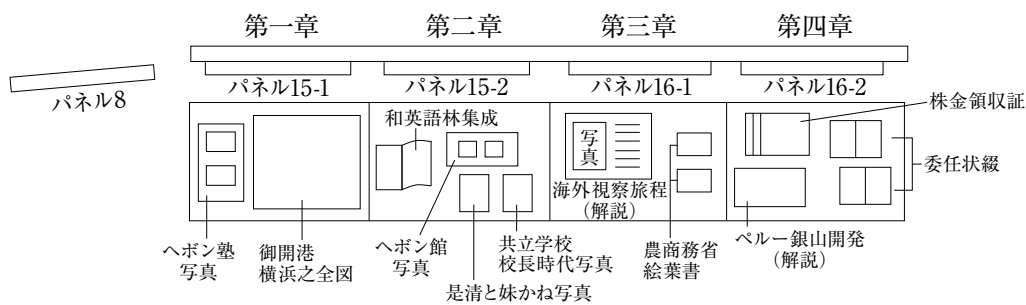
H25-3 日本銀行・横浜正金銀行時代



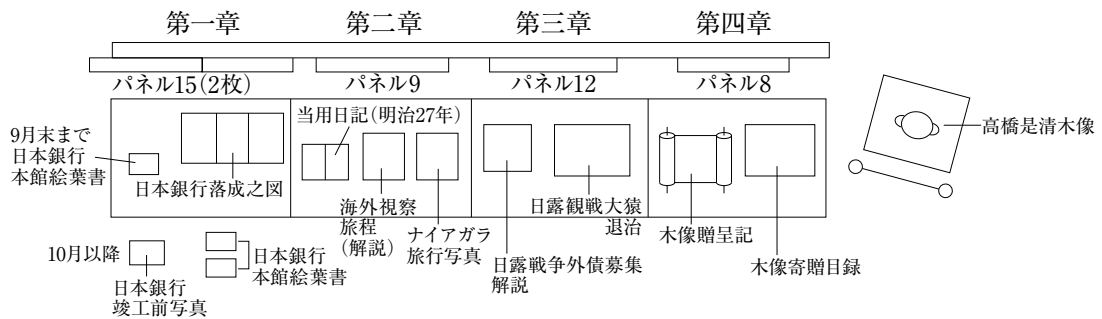
H25-4 是清が愛した品々



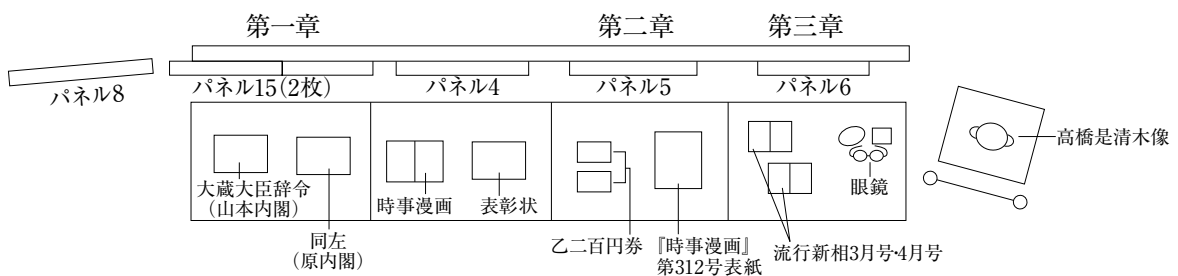
H25-5 二・二六事件と高橋是清邸



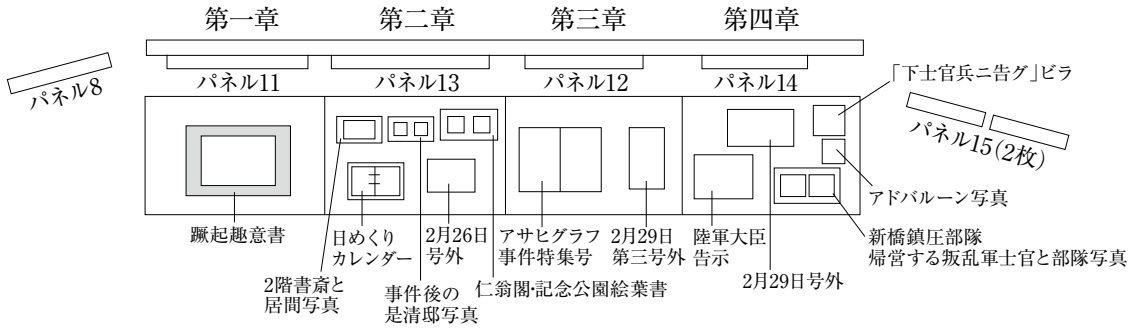
H26-1 幼少期からペルー銀山開発まで



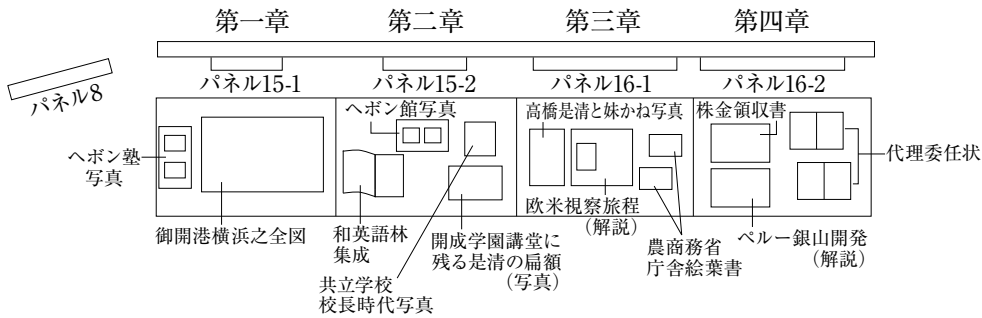
H26-2 日本銀行・横浜正金銀行時代



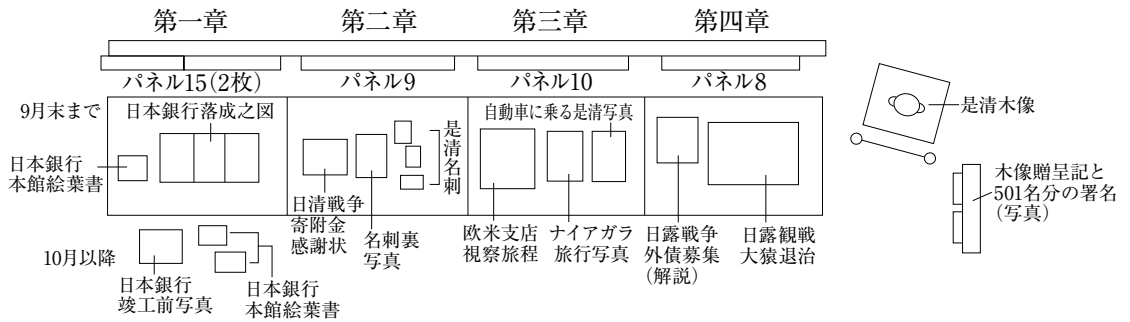
H26-3 政治家高橋是清



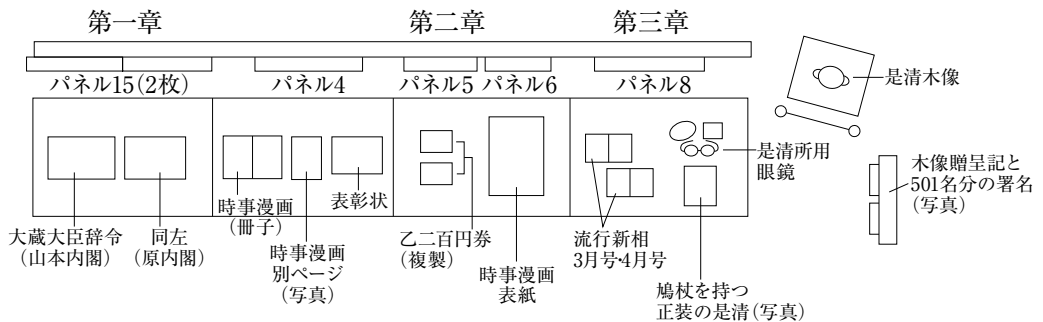
H26-4 二・二六事件と高橋是清邸



H27-1 幼少期からペルー銀山開発まで



H27-2 日本銀行・横浜正金銀行時代



H27-3 政治家高橋是清

【主要展示資料 (口絵17～65) リスト】

口絵	資料番号	資料名	年代	作者・発行者	所蔵先	備考
17		谷戸橋とヘボン邸	1870.3.1		横浜開港資料館	「The Far East」掲載。横浜の外国人居留地の西端、谷戸橋の近くに1862年暮れ、宣教師館が完成し、ヘボンは私塾を開いた。ヘボンは医学を、夫人のクララは英語を教えた。是清は仙台藩の子弟、鈴木知雄とともに1865年から横浜に移り住んでヘボン塾で英語修行に励んだ。
18		ヘボン邸の庭に集うヘボン塾の子供たちとクララ (ヘボン夫人)	1874.75.		横浜開港資料館	中央の洋装の女性がクララ夫人。
19		ヘボンの寄付により建設された学生寄宿舎ヘボン館	1887		明治学院歴史資料館	『和英語林集成』の版權を託された丸善は1886年、ヘボンに印税として1万円を支払った。ヘボンはこの全額を明治学院に寄附し、明治学院はこれを寄宿舎建設に充てた。寄宿舎は「ヘボン館」と名付けられた。
20		アメリカでヘボン死亡の朝、炎上焼失したヘボン館	1911.9.21		明治学院歴史資料館	1911年9月21日早朝、ヘボン館は原因不明の火災により、炎上・焼失した。同日朝、すでに数年前、アメリカに戻っていたヘボンが亡くなった。
21		開成学園講堂に掲げられている是清揮毫の扁額	1931		開成学園校史資料室	是清が初代校長を務めた共立学校は現在の開成学園の前身であることから、1931年、創立60周年を記念し、是清は「開物成務」を揮毫して学園に贈った。この扁額は現在でも学園の講堂に据え付けられ、入学式などの式典の際、ステージに掲げられる。
22	881.37217	農商務省庁舎絵葉書	明治後期		江戸東京博物館	1887年暮、是清の訴えにより、特許局は農商務省の外局として独立すると、是清は局の庁舎建設を進めた。ジョサイア・コンドルの弟子、新家孝正が設計し、大倉組によって築地に建設された。だが、是清はペルー銀山開発のため、施設竣工の2年前に官職を辞した。この間、特許局は内局に戻り、施設は農商務省の庁舎となった。
23～25	06970003	代理委任状	1889.11	藤村紫朗他	江戸東京博物館	ペルーで農業を興すため、ペルーにおける土地の使用権利の出願、会社の設立、機械等の設置、農産物売買の契約等を委任する書類。冊子状で二組残されている。この資料は高橋是清翁記念公園内に設置されていた資料館に展示されていた。1945年5月の東京大空襲で資料館は被災し、ケース内で焼失は免れたが、展示部分に色ヤケが残った。
26	91002984～ 91003000	株金領収証	1889-1890	日秘鉱業会社 創立事務所	江戸東京博物館	ペルー開発の目的で設立する日秘鉱業会社の株式を是清が購入した分の領収証。17枚の中に、上記と同様、色ヤケした資料もある。
27	07659147	竣工前の日本銀行本館	1890年代前半		江戸東京博物館	1892年、是清は日本銀行本館建築事務主任に就任した。
28	881.38747	日本銀行本館絵葉書	明治後期		江戸東京博物館	日本銀行本館の設計を担当する辰野金吾は、濃尾地震発生により、耐震構造にすため、当初計画の総石造りから煉瓦積みに変更した。石のパネルを貼ることで外観を石造りに見せる手法は是清の提案といわれる。この絵葉書の右下を見ると、1階と2階以上の壁の仕上げが違ふことがよくわかる。
29	86200122～ 86200124	日本銀行落成之図	1896	篠原清興	江戸東京博物館	日本銀行本館は1896年2月に竣工し、3月22日に落成の記念祝賀会が行われた。この錦絵は祝賀会の様子を描いている。なお、この資料は2013年5月からの展示が初公開で、それ以来、年一回、公開している。

30	02004226	日清戦争軍資金寄附感謝状	1897.6.1	東京府知事	江戸東京博物館	日清戦争終結後、軍資金献納者に東京府が贈った感謝状。献納者、奥八郎兵衛は代々魚を扱った御用商人で、1881年（明治14）、日枝神社の境内に「星岡茶寮」を設立したメンバーの一人。献納金100円の現在の貨幣価値は50万円～100万円といわれる。
31	02004227	日清戦争従軍者家族扶助金寄附感謝状	1897.6.1	東京府知事	江戸東京博物館	こちらは、日清戦争従軍者家族扶助金献納者に東京府が贈った感謝状。
32	87102638	日露観戦大猿退治	1904.11.1	榎本松之助	江戸東京博物館	日露戦争の各国情勢を揶揄した風刺画。「神武」（日本）は「山猫」（朝鮮）、「綿牛」（清国）を食い荒らしまわす「大猿」（ロシア）を退治して、世界の平和を保たねばならぬ、と主張している。「大猿」（ロシア）は小国と侮った日本との戦いが意外に劣勢のうえ、巨額をかけて開発したシベリア鉄道への損失、外債償還、戦争に負けた場合の賠償金支払いなどがのしかかり、実に苦しいと述べている。一方、アジアに進出を始めた欧米列強も描かれ、「大象」（フランス）は、「大猿」（ロシア）の借金がヒマラヤより高く積もっているのに、この戦争でさらに外債受け入れをフランスに求めていることに嫌気がさしている。日清戦争後、ロシア、フランスとともに三国干渉によって、日本に遼東半島返還を迫った「虎」（ドイツ）も、「大猿」（ロシア）は見通しがあまい、と苦言を呈している。「ライオン」（イギリス）は上から、「ラクダ」（アメリカ）は地面に座り込んで、それぞれ情勢を眺めている。
33～34	91003052	高橋是清木像	1914	米原雲海	江戸東京博物館	1911年、高橋是清の日本銀行総裁就任した。翌年、横浜正金銀行行員は一回より就任祝いとして是清の木像を彫刻家（高村光雲の弟子）米原雲海にオーダーし、2年後に完成して是清に贈られた。会期に合わせて木像専用の行灯型展示ケースを制作し、食堂に設置した。
35	91003053	御肖像（高橋是清）贈呈記	1912.5	横浜正金銀行 員一同	江戸東京博物館	1912年、是清木像をオーダーする時点で、木像を贈呈することになった経緯を巻頭に、そのあとには横浜正金銀行行員各自（海外支店を含む501名）の署名をつけて太巻きの卷子仕立てにした「贈呈記」が作られ、おそらく木像に先行して是清に贈られた。
36	[91003052]	高橋是清木像日録	1914.5	横浜正金銀行 員一同	江戸東京博物館	是清の木像が完成した時に添付して贈られた日録。木像の付属資料として登録している。
37～38	06970005～ 06970009	高橋是清名刺	明治後期	高橋是清	江戸東京博物館	肩書のある名刺3枚は、1907年から1913年初頭まで使われていたもの。5枚のうち3枚の名刺の裏に美術品の墨書があり、馴染みの古美術商に気に入った美術品を予約する際に用いたものと思われる。是清は古美術品の収集を趣味としていた。
39	91003027	大蔵大臣辞令（山本権兵衛 第一次内閣）	1913.2.20	山本権兵衛	江戸東京博物館	高橋是清の辞令類は首都大学東京図書館センターが一括で所蔵しているが、ごく一部が仁翁閣関係資料として、移築時にあわせて建設局から移管された。No.7～No.10と同じく記念公園内の資料館のケース内に展示するために抽出されて、そのまま保管されたものと思われる。戦後、仁翁閣内でも資料展示が行われていたのでもともと展示された可能性もある。
40	91003028	大蔵大臣辞令（原敬内閣）	1918.9.29	原敬	江戸東京博物館	同上。

41	99001973	護憲三派の風刺漫画 （『時事漫画 時事新報』 部分）	1924.3	北澤楽天	江戸東京博物館	1899年、北澤楽天は『時事新報』の漫画記者となり、1902年11月からは日曜版漫画欄『時事漫画』も担当した。1921年、『時事漫画』は日曜漫画版として独立し、『時事新報』のカラー漫画欄も担当した。本資料は複数発行日のカラー漫画欄をスクラップした冊子。展示では冊子のまま展示した。
42	91003028	「内閣総理大臣たる前官の礼遇を賜う」辞令	1925.4.18	加藤高明	江戸東京博物館	是清は1925年4月、加藤内閣の農林大臣、商工大臣を辞職し、政友会総裁も田中義一に譲り、政界を引退した。この際に受けた辞令。
43	96900001～ 96900002	乙二百円券（複製）	1927.4	日本銀行	江戸東京博物館（原資料日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵）	田中義一内閣の大蔵大臣就任直後から、是清は次々と金融恐慌による混乱收拾につとめた。取付騒ぎで支払いに追われる市中銀行に現金をいち早く供給するため、簡略なデザインで表面のみ印刷した200円札（通称ウラシロ）を500万枚印刷した。主に銀行の店頭に積む「見せ金」として使われたが、警察への届け出が遅れたため、一部預金者が用いて、偽札使用で逮捕される事件も起こった。
44	89206782	「質置く（七億）で達磨さんより銀行起き上がり」『時事漫画』第312号表紙	1927.5.22	北澤楽天	江戸東京博物館	本資料は日曜漫画版『時事漫画』の表紙。「だるまさん」のニッケネームで親しまれていた高橋是清が金融恐慌を沈静化させたことを漫画で表現している。
45	91002965～ 91002971	花輪文食器	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	仁翁閣移築時にあわせて建設局から移管された資料。
46	91002962	〔高橋是清所用〕著・著箱	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。
47	91002964	〔茜庵〕染付湯呑	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。「茜庵」は高橋是清の号。
48	91002942	〔高橋是清所用〕眼鏡	〔昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。
49	91002972	〔茜庵〕染付徳利	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。「茜庵」は高橋是清の号。
50	91002947 91002948 91002951 91002952 91002954 91002955	〔高橋是清所用〕筆	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。是清が揮毫した書軸や扁額も移管されている。
51	91002944	〔高橋是清所用〕布袋像水差	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	仁翁閣移築時にあわせて建設局から移管された資料。
52	91003255	〔高橋是清所用〕龍文筆立	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。
53	91003034	達磨木像	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。
54	91002945	龍文彫金置物	〔大正～昭和前期〕		江戸東京博物館	同上。

55	91002941	高橋是清所用日めくりカレンダー	1936.2.26		江戸東京博物館	同上。2月26日のページにみられる色ヤケはNo.9と同じで、赤坂の記念公園内に設置されていた資料館のガラスケース内で展示されていた資料が1945年5月の東京大空襲に被災したためと思われる。
56	91003264	東京大空襲被災前の日めくりカレンダー写真	[1941-1945]		江戸東京博物館	被災前の写真も移管資料に含まれていた。よく見ると、26日のページに鉛筆で是清の最後の書き込みがみられる。
57	91213455	蹶起趣意書	1936.2.26	野中四郎ほか	江戸東京博物館	二・二六事件の際、蹶起した青年将校たちがその趣旨をしたためたもの。「二・二六事件 東京陸軍法会議判決書」によれば、村中孝次が起草し、事件前日夜、磯部浅一、香田清貞との最終合で「陸軍大臣二対シ要望スベキ事項」とともに決定し、印刷した。趣意書は蹶起部隊召集時、下士官に読み聞かせて行動の趣旨を伝えた。また決行後、午前7時に陸軍大臣と面会した香田が趣意書を朗読し、各所襲撃状況を説明、要望事項を記した書類を渡して陸軍大臣が宮中へ参内するよう求めた。その他、東京朝日新聞社襲撃後、東京日日新聞社、国民新聞社、報知新聞社などを訪れて趣意書を配布し、掲載を要求した。
58	91213424	陸軍大臣告示	1936.2.26		江戸東京博物館	叛乱軍を鎮撫し、原隊への復帰を促すために陸軍上層部によって陸軍大臣名で作成された告示文。2月26日昼前から宮中に集まってきた陸軍大臣、山下泰文少将、東京警備司令官・香椎中将、軍事参議官によって討議された結果、告示文にまとめられた。蹶起軍将校には山下少将が伝え、午後3時20分、東京警備司令部より各師団に通達された。ところが、「目二月二十六日及四十九日近衛師団行動詳報」によれば、同日の午前11時、警備司令官を経て「陸軍大臣告示」が伝達された。伝達を受けた橋本近衛師団長は、真意が不明のため、近衛師団としてこの告示を部下に通達しなかった。このことから、「陸軍大臣通達」は軍事参議官会議以前に、一部の陸軍上層部によって成文化され、通達されていたことがわかる。
59	89004365	「下士官兵ニ告グ」ビラ	1936.2.29	戒厳司令部	江戸東京博物館	2月29日午前9時前、武力による鎮圧開始予定の直前の段階で、戒厳司令部より下士官の帰順をよびかけるラジオ放送が行われ、同じ頃、その趣旨をうったえるビラが飛行機から撒布された。また、ビラの屋上から「勅命下る軍旗に手向かうな」のアドバルーンも揚げられた。これを受けて叛乱軍は武力抵抗を行わず、下士官兵は午後、原隊に帰った。その場で自殺した野中大尉及び療養先で自殺した河野大尉以外の将校は逮捕され、その後緊急勅令により設置された東京陸軍軍法会議で裁かれ、同年7月、15名の死刑が執行された。
60	05650927	二・二六事件後、高橋是清邸門前の警備	1936.2.26	共同通信社	江戸東京博物館	青山通りに面した高橋是清邸入口には、江戸時代の武家屋敷の門があり、高橋家でもそのまま使われていた。是清の死後、邸宅が東京市に残され、「高橋是清翁記念公園」に整備された後も門はそのままに高橋は利用された。しかし、1945年5月の東京大空襲により、門は「高橋是清記念館」とともに被災、焼失した。

61	05650945	高橋是清葬儀（築地本願寺）	1936.3.26	共同通信社	江戸東京博物館	陸軍は二・二六事件発生の夜、即死した是清を「重傷」と発表した。是清が男女問わず人気の高い政治家だったため、人心の混乱を避けるためだったといわれる。29日には是清も死亡したことが報じられたが、葬儀は陸軍の統制により、一か月後の3月26日、築地本願寺で行われた。多くの市民が弔問に訪れ、葬儀終了の予定時間を大幅に遅らせる結果となった。
62	91003263	旧高橋是清邸主屋二階是清寝室より書斎を望む	昭和前期		江戸東京博物館	書斎の床の間の前には事務デスクが置かれ、寝室との境(手前)には文机が置かれていた。この二部屋が高橋是清襲撃事件の現場となった。
63	90007270	多磨霊園内「仁翁閣」竣工時の記念絵葉書	1941.6	東京市	江戸東京博物館	赤坂表町の高橋是清邸から主屋と玄関をたは是清の墓が設置されている多磨霊園へ移築し、1941年より休憩所として活用した。江戸東京たてもの園開園にあたり、「仁翁閣」を移築した。
64	90007269	高橋是清翁記念公園 初代銅像の記念絵葉書	1941.6	東京市	江戸東京博物館	「高橋是清翁記念公園」は旧高橋是清邸跡地を整備して造園された。「仁翁閣」と同時に公開され、公園の奥(南側)に、新聞を手に洋装で椅子に腰かける銅像が設置されたが、戦時中、金属供出のため撤去された。1955年、和装の銅像が東京都によって再建された。
65		「高橋是清邸」食堂における歴史展示				「高橋是清邸」食堂における歴史展示の様子。のぞき式ケース4面に資料を展示し、その背後の展示壁に展示パネルを設置している。右端は「高橋是清木像」の専用展示ケース。

【展示パネルリスト】

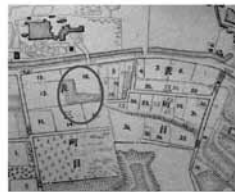
No.	タイトル	展示期間	展示タイトル	備考
1	藩邸から高橋是清邸へ	2013.2.9-2013.5.12	高橋是清邸と二・二六事件	
2	高橋是清邸平面図	2013.2.9-2013.5.12	高橋是清邸と二・二六事件	基図：「高橋是清邸建物平面図（一階）」以後、2013年9月1日まで毎回展示
3	高橋是清邸における叛乱軍の動き	2013.2.9-2013.5.12	高橋是清邸と二・二六事件	基図：「高橋是清邸建物平面図（一階）」
4	第二次護憲運動と高橋是清	2013.5.14-2013.9.1 2014.12.23-2015.2.15 2016.1.2-2016.2.14	政治家高橋是清	
5	昭和初期の金融恐慌と高橋是清	2013.5.14-2013.9.1 2014.12.23-2015.2.15 2016.1.2-2016.2.14	政治家高橋是清	
6	高橋財政とその前後	2013.5.14-2013.9.1 2014.12.23-2015.2.15 2016.1.2-2016.2.14	政治家高橋是清	
7	高橋是清年譜	2013.9.3-2013.12.26	日本銀行・横浜正金銀行時代	是清木像画像を年表内に取り込む以後、2014年4月11日まで毎回展示
8	高橋是清邸平面図	2013.9.3-2013.12.26	日本銀行・横浜正金銀行時代	基図：「高橋是清邸復原因図」以後、現在まで毎回展示
9	日清戦争	2013.9.3-2013.12.26 2014.9.2-2014.12.21 2015.9.1-2015.12.25	日本銀行・横浜正金銀行時代	
10	日露戦争と外債募集	2013.9.3-2013.12.26 2014.9.2-2014.12.21 2015.9.1-2015.12.25	日本銀行・横浜正金銀行時代	
11	二・二六事件関連年表	2014.2.22-2014.5.11 2015.2.17-2015.5.10 2016.2.16-2016.5.15	二・二六事件と高橋是清邸	
12	二・二六事件概況	2014.2.22-2014.5.11 2015.2.17-2015.5.10 2016.2.16-2016.5.15	二・二六事件と高橋是清邸	
13	高橋是清邸における叛乱軍の動き	2014.2.22-2014.5.11 2015.2.17-2015.5.10 2016.2.16-2016.5.15	二・二六事件と高橋是清邸	基図：「高橋是清邸復原因図」
14	襲撃事件後の動き	2014.2.22-2014.5.11 2015.2.17-2015.5.10 2016.2.16-2016.5.15	二・二六事件と高橋是清邸	
15	高橋是清年譜	2014.4.13-2014.8.31	幼少期からペルー鉱山開発まで	下段の写真を入れ替え以後、現在まで毎回展示
16	高橋是清家族と住居の系譜	2014.4.13-2014.8.31 2015.5.12-2015.8.30	幼少期からペルー鉱山開発まで	

【展示パネル】

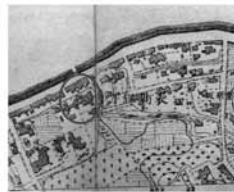
藩邸から高橋是清邸へ



尾張屋版切絵図「今井谷六本木赤坂」
安政4年(1857年)『赤坂区史』より
江戸時代は、青山備中守の中屋敷であった。
敷地の北側に厚木街道が通っている。



東京実測図のうち三輪(赤坂区・麻布区・芝区)
1886年(明治19) 内務省地理局
江戸時代、周辺の町屋は赤坂表伝馬町とよ
ばれたが、1872年(明治4)、赤坂表となった。



東京実測図第八号東京西部 麹町四谷赤坂
1887年(明治20) 参謀本部陸軍部測量局
のちに高橋是清邸となるエリアに建造物が
確認できる。



東京市赤坂区全図
1921年(大正10) 東京通信局

敷地北側の青山通りは拡幅され、1904年(明
治37)には市電が三宅坂から青山四丁目ま
で開通した。高橋是清邸の南には田丹波藤
山藩藩主青山忠誠の養子忠允の邸宅があっ
た(大正10年時点での青山邸当主は不明)。



大東京区分35区 赤坂区詳細図
1941年(昭和16)

二・二六事件による高橋是清の死亡後、敷地
は高橋是清翁記念公園として整備された。
なお、本図には二・二六事件の際、約60名が
守備隊控兵として待機した皇軍国公使館も
みられる。

高橋是清邸沿革

1899年(明治32)	本所押上町193番地から転籍
1901年(明治34)	高橋邸着工
1902年(明治35)	高橋邸竣工
1936年(昭和11)	二・二六事件
1938年(昭和13)	土地、建物が東京市へ寄贈される
1941年(昭和16)	母屋は多摩霊園へ移築、仁翁閣(休憩所)として使用される。敷地は高橋是清翁記念公園として整備
1945年(昭和20)	東京大空襲により、記念公園の建造物焼失(公園は存続)
1952年(昭和27)	カナダ大使館に記念公園の土地の一部割譲
1962年(昭和37)	放射線第4号線用地として記念公園の道路側の土地除外
1975年(昭和50)	記念公園は東京都から港区へ移管
1991年(平成3)	仁翁閣、江戸東京たてもの園予定地へ移築
1993年(平成5)	江戸東京たてもの園開園

1 藩邸から高橋是清邸へ

高橋是清邸平面図

青山通り

2階 是清邸室から書斎を望む

2階 庭先

1階 十畳 (家族と)

1階 十畳 (食事)

3階建 (倉庫) (ホール)

15畳

八畳 寝室

十畳 書斎

2階

1階 廊下

1階 心算間

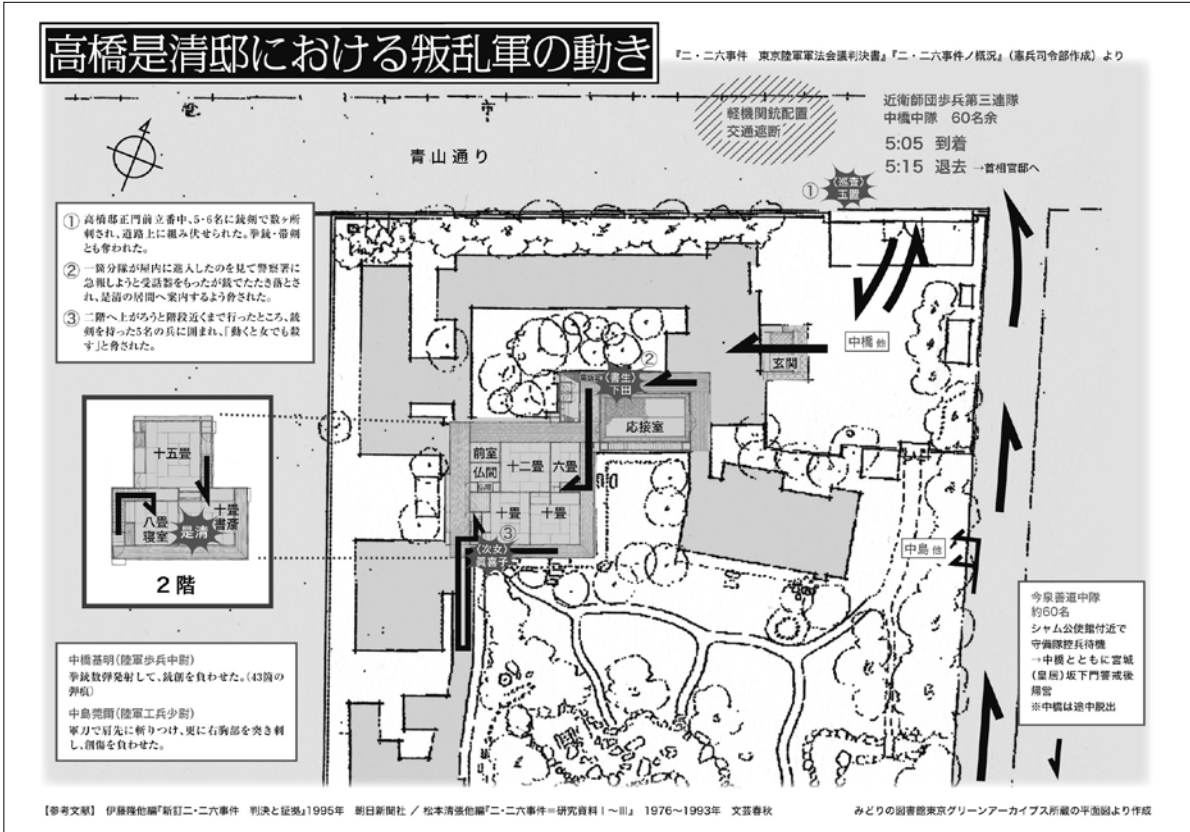
庭 芝生

門の中間

玄関 (家族見送り)

みどりの図書館東京グリーンアーカイブス所蔵の平面図より作成

2 高橋是清邸平面図



3 高橋是清邸における叛乱軍の動き

高政協議懇話会
1924年(大正13)1月22日
江戸東京博物館所蔵
左から高橋高明(憲政会)、高橋是清
(立憲政友会)、犬養毅(革新倶楽部)

岡崎久次郎邸にて 1924年2月16日 江戸東京博物館所蔵

大日本自動車工業社長で憲政会創立者のひとり、岡崎久次郎の宅に集まった「護憲三派」の各党首ら。前列中央が加藤高明、向かって左が是清、加藤の後ろが濱口雄幸(憲政会)、前列左端が岡崎久次郎、右から二番目は若槻礼次郎(憲政会)、右端は第二次護憲運動を推進した立憲政友会幹部、岡崎邦輔。

第二次護憲運動と高橋是清

- 1923年(大正12)12月27日
摂政裕仁親王狙撃未遂事件(虎ノ門事件)が起こり、同日、第二次山本権兵衛内閣総辞職
- 1924年(大正13)正月
秘密院議長清浦奎吾に組閣の命が下る
- 1月7日
清浦奎吾内閣成立。総理大臣、陸海軍外務大臣を除く閣僚を貴族院議員で占める超然内閣となった
- 1月15日
高橋是清邸にて立憲政友会幹部会。総裁の是清は清浦内閣不支持と爵位・貴族院議員を辞して衆議院議員に立候補することを表明
- 1月16日
山本達雄、床次竹二郎らが148名で立憲政友会に脱党届を提出
- 1月18日
三浦梧楼の斡旋により、三浦邸に加藤高明(憲政会)、高橋是清(立憲政友会)、犬養毅(革新倶楽部)が集まり、「護憲三派」を結成。清浦内閣打倒、政党内閣制確立を目指すことで合意した(第二次護憲運動)
- 1月下旬
関西で憲政擁護大会を開催するなど第二次護憲運動を大規模に展開
- 1月29日
山本達雄ら政友本党を結成し、清浦内閣の与党となる
- 1月31日
清浦奎吾内閣衆議院解散
(第15回衆議院議員総選挙にむけて、各選挙区選挙運動開始。是清は盛岡市から立候補、演説や座談会に赴く)
- 5月10日
第15回衆議院議員総選挙。護憲三派286名(憲政会151名、立憲政友会105名、革新倶楽部30名)当選。是清も当選。清浦内閣支持の政友本党は109名のみで、「護憲三派」圧勝
- 6月11日
清浦内閣総辞職。加藤高明内閣成立。是清は農商務省大臣に任命される

4 第二次護憲運動と高橋是清

昭和初期の金融恐慌と高橋是清



1923年(大正12)9月1日
関東大震災

9月7日
東京市の銀行・会社経済のため、9月1日から30日間のモトリアム(支払禁止令)を発布

9月27日
日本銀行、「震災手形割引損失補償令(日銀が震災手形を割り引くことによって起こる損失のうち1億円まで政府が補償する)」を緊急命令で発布。満期日 1929年9月30日限り

1925年(大正14)3月31日
震災手形の満期日を1926年9月30日限りに延長

1926年(大正15)3月29日
震災手形の満期日を1927年9月30日限りに延長

1926年卒業
この時点で半決済の震災手形は2億680万円

1927年(昭和2)1月26日
「震災手形損失補償公債法(震災手形割引損失補償令にもとづく日本銀行への損失補償を定める)」。「震災手形損失補償法(震災手形割引損失補償令で日本銀行が割り引いた手形を所有する銀行に2億700万円を無償に高橋を貸し付け、10年割賦で返済を行う)」を議会上程

3月14日
衆議院予算委員会で片岡謙三蔵相、「高橋銀行が今日破綻した」と発言

3月15日〜24日
全国に銀行取り付け続々

3月16日
日本銀行、市中銀行へ4銀行分の非常貸し出しを行う

3月25日
台湾銀行、郵便商店への新規貸付停止

3月30日
1月26日に上程の2法案成立

4月5日
郵便商店破綻

4月13日
台湾銀行救済の緊急命令案を閣議決定

4月17日
郵政院、緊急命令案を否決。若槻内閣総辞職

4月18日
台湾銀行休業、全国に銀行取り付け続々

【写真:上】
取り付け騒ぎの東京野村銀行前で行列
1927年(昭和2)4月21日
毎日新聞社所蔵

【写真:左】
田中義一(左)と高橋是清(右)
江戸東京博物館所蔵

4月19日
田中義一、新内閣組織。星清に大蔵大臣就任を依頼。星清は応諾の意までを条件に承諾

4月20日
田中内閣成立。日本銀行総裁らと収拾策を協議、同銀行に非常貸し出し、特別融資を指示

4月21日
5月12日まで3週間のモトリアムと日銀特種の緊急命令案を閣議決定。並立院も承認。銀行に22、23日自主休業を要請

4月22日
緊急命令、即日施行。全国の銀行、22、23日一旦休業。日本銀行、22日〜24日の休業期間に市中銀行供給用の紙幣大量印刷。特殊なデザインで大量印刷(ウラシロ)500万枚

5月3日
第5回臨時国会開幕。日銀の特別融通・縮減、台湾銀行救済法案審議、可決

5月9日
台湾銀行営業再開

5月13日
モトリアム期限切れ、とくに混乱なし

5月27日
星清の後任、岡内閣の文部大臣。三土忠通に閣議決定

6月2日
星清、大蔵大臣を辞任

5 昭和初期の金融恐慌と高橋是清

高橋財政とその前後



高橋大蔵官邸廊下を歩く高橋是清
1934年(昭和9)12月
江戸東京博物館所蔵

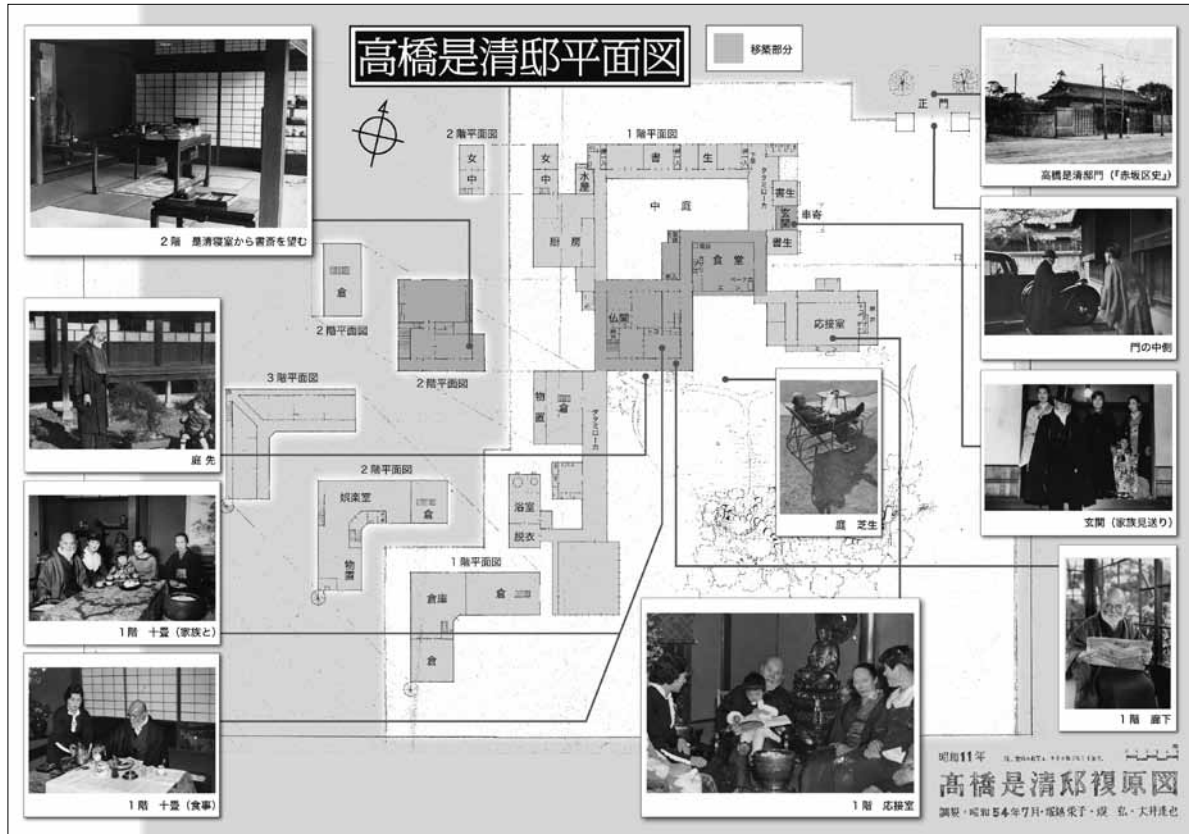
高橋是清は、1931年(昭和6)12月、大蔵省内部の大蔵大臣に就任し、その後続く森田実内閣、岡田啓介内閣でもこれを歴任した。この時期の経済政策は「高橋財政」とよばれている。その特徴は、(1)金輸出禁止による金本位制離脱、(2)積極的な財政支出、(3)国債の日銀引き受け発行と低金利政策であり、これらによって重化学工業の進展、植民地への輸出拡大、農村の窮乏救済がはかられ、昭和恐慌による深刻な不況下にあった日本経済は回復に向かった。一方、財政支出のうち軍事費の占める割合が年々高まり、昭和11年度予算ではさらなる軍事費拡大を求める軍部と削減をはかる是清の間に対立が生じた。

「高橋財政」は前の「井上(準之助)財政」(真口雄幸内閣・第二次斎藤礼次郎内閣)は、財政の均衡を重視する緊縮財政・非暴論主義が特徴で、政府支出を極端に抑制していることが左のグラフからもわかる。

是清は1936年2月26日、陸軍青年学校の日軍に襲われ、岡田内閣は総辞職、3月には広田弘毅内閣が成立した。大蔵大臣に任命された高橋は、是清の公債漸減主義を放棄し、国防の充実と地方振興のため、増税と公債増発を積極的に行った。その結果、歳出額は前年比33.7%増、うち軍事費は前年比33%増、公債発行は前年比40.7%増にのぼった。その後の林銑十郎内閣、第一次近衛文麿内閣、阿部信行内閣においても公債増発による歳出額の上昇が続いた。

参考文献「日本経済史 1600-2000 一歴史に読む現代」2009年
浜野敦一 著 東洋館出版 東京経済大学出版株式会社発行 ほか

6 高橋財政とその前後



8 高橋是清邸平面図

日清戦争

1894年(明治27)

- 3月 全羅北道で東学党の乱(農民の反乱)発生。朝鮮政府、清国に派兵求める。日本も居留民保護の名目で派兵。
- 6月 2日 日本政府、朝鮮派兵を閣議決定。
- 7月23日 日本軍、朝鮮王宮占領。
- 25日 豊島沖海戦
- 29日 成歓の戦い
- 30日 牙山の戦い
- 8月 1日 日清両国が宣戦布告
- 9月15日 平壤の戦い
- 10月24日 黄浦江の戦い
- 30日 安東占領
- 11月21日 旅順陥落
- 12月13日 海城占領

1895年(明治28)

- 1月30日 威海衛の戦い
- 3月 5日 牛莊城占領
- 20日 下関で講和会議を行う
- 26日 日本、台湾・澎湖島を占領
- 4月17日 下関条約(日清講和条約)締結
- 24日 遼東半島の割譲、露・仏が返還を要求(三国干渉)
- 5月 4日 日本政府、遼東半島返還を閣議決定
- 8月 6日 明治政府、台湾総督府条例により、台湾で軍政をしく。
- 10月 8日 閩妃暗殺事件
- 11月18日 台湾総督、大本營に全島平定を報告

1896年(明治29)

- 3月31日 台湾総督府条例公布により、軍政から再び民政に移行

日清戦争図八(江戸東京博物館所蔵)

収入 2億2,523万円

「日本銀行100年史」

明治26年度余剰金 約2,342万円 10.4%

特別資金借入れ (賠償金による返済) 約7,883万円 35.5%

公債金(内債) 約1,689万円 51.9%

その他 約609万円 2.2%

支出 2億48万円

「明治大正財政経覧」東京経済新聞社 1975年(1925年初版)

軍事費の収支決算
(臨時軍事費特別会計計分)

※特別資金・借入金等
※日本銀行からの借入金

陸軍費 82.1%

海軍費 17.9%

糧食費 12.4%

被服費 10.8%

兵隊 俸給費 5.6%

運送費 16.9%

兵器 弾薬費 5.6%

人件費 1.1%

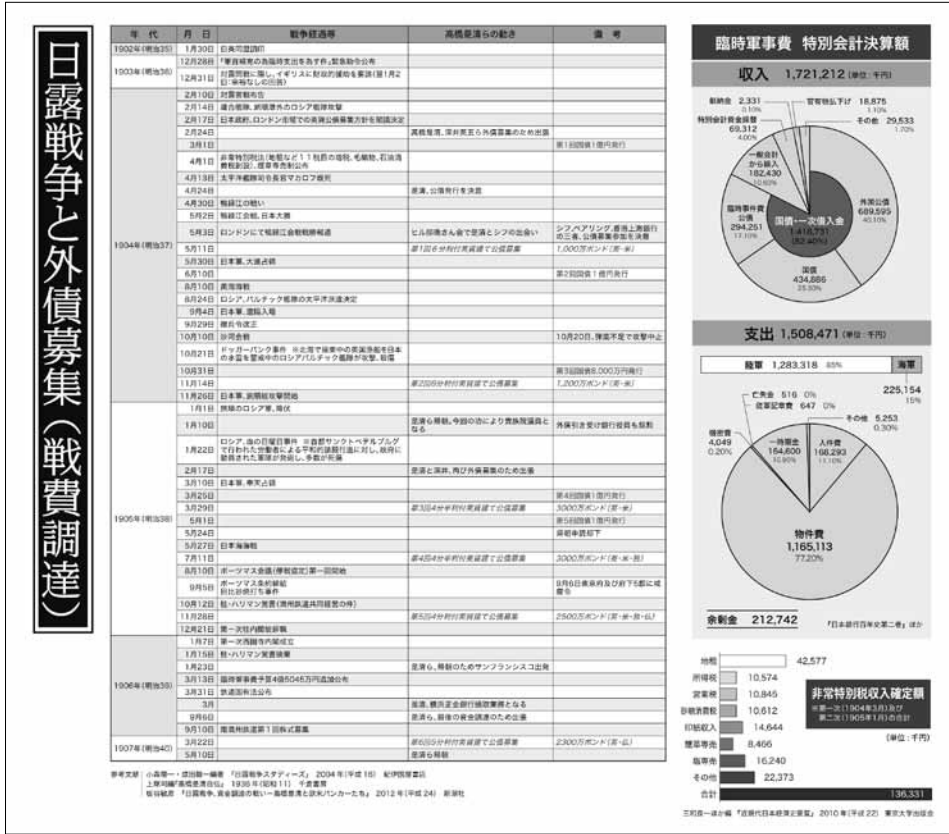
郵船費 6.4%

兵器 弾薬費・水雷費 9.0%

その他 5.4%

人件費 18.4%

9 日清戦争



二・二六事件概況

歩一：陸軍歩兵第一連隊 歩三：陸軍歩兵第三連隊 近歩三：近衛歩兵第三連隊 皇機教：皇機教導学校 野重七：野戦重砲兵第七連隊

1 首相官邸(永田町)
5:00~6:00

部 隊：東原安秀中尉率いる歩一機関銃隊 隊員265名、重機関銃11、対馬中尉、竹島中尉(以上皇機教)、池田少尉、林少尉(以上歩一)

被害者：内閣総理大臣秘書官松尾伝蔵(妹婿)、護衛官4名即死

※岡田首相、女中部屋に避難、翌日午前、平岡等に扮して官邸脱出。
※陸軍省は2月26日20時15分、「岡田首相即死、後藤内務大臣臨時首相に就任」と発表。

2 高橋内大臣私邸(四谷)
5:00~5:10

部 隊：坂井重三中尉率いる歩三第一、第二中隊、機関銃隊約兵210名、重機関銃12、高橋少尉、妻谷村志少尉(歩三)、安田少尉(砲少尉)

被害者：内大臣高橋是清即死

※決行後、高橋、安田は歩三第一中隊等を率いて③へ、坂井率いる残りの部隊と妻谷は陸軍省庁舎へ。

3 渡辺教育總監私邸(上荻窪)
6:00~6:30

部 隊：高橋大尉少尉率いる歩三第一中隊約30名、軽機関銃2、野重七軍用貨物自動車、安田少尉

被害者：教育總監渡辺大尉即死

※決行後、陸軍省付近で本体(②部隊)に合流。

4 鈴木侍従長官邸(三番町)
4:50~5:30

部 隊：安藤輝三大尉率いる歩三第六中隊 将兵約200名、重機関銃9

被害者：侍従長鈴木太郎重傷、巡査2名負傷

※決行後、三宅坂方面へ。

5 高橋蔵相私邸(赤坂表町)
5:05~5:15

部 隊：中橋基明中尉率いる近歩三第七中隊約59名、軽機関銃4、中島少尉(工少尉)、今泉少尉

被害者：大蔵大臣高橋是清即死、巡査1名負傷

※今泉少尉が宮城(現在の皇居)守備砲兵62名を率い、シャム公使館付近路上で待機、決行後、中橋が率い、半蔵門から宮城に入り、坂下門警備。その後、中橋中尉のみ宮城を出て参謀本部へ向かう東橋隊と合流。
※実行部隊は中島少尉が率いて首相官邸へ。
※2月26日20時15分に陸軍省は「高橋大蔵大臣負傷」と発表。

6 牧野前内大臣静養先(湯河原)
0:20東京出発、5:00頃~6:30

部 隊：河野毒大尉(航大尉)率いる現役下士官、在郷軍人6名、軽機関銃2、宗川善助(陸軍士官学校中退民間人)

被害者：巡査1名即死

※巡查射殺後、事統・機関銃を屋内に向かって乱射し、家屋に放火したが、牧野は避難。
※河野大尉は被弾し、重症のため、東京第一衛戍病院熱海分院へ、三島憲兵分隊員に逮捕される。3月5日、分院にて自殺を図り、6日死亡。

7 陸軍大臣官邸(三宅坂)
5:30到着

部 隊：丹生誠忠中尉率いる歩一第一中隊・機関銃隊約兵192名、重機関銃6、香田大尉(歩一旅司令部)、竹島中尉、山本少尉(予歩)、村中孝次(元大尉)、磯部漢一(元一等主計)

※官邸を占拠し、電話室・通信所も通信を絶つ。6:30頃から香田、村中、磯部、陸軍大臣と面談、「緊急避席書」を説明し、事態の収拾に善処を要望。

8 警視庁(板田門)
5:00到着

部 隊：野中四郎大尉率いる歩三第七、清原少尉率いる同第三、鈴木少尉率いる同第十、及び機関銃隊約兵520名、重機関銃22、常盤少尉(歩三)

※警視庁を占拠し、板田門、日比谷、虎ノ門、三宅坂に向かう各要所に歩哨を立て、完全に同庁を包囲。当日の最高幹部、岡崎特別警備隊長に閣議の最意を伝達し、庁舎明け渡しを要する。
※野中尉、午後6時までに内務大臣官邸を占拠。

9 東京朝日新聞(有楽町)
10:00頃~

部 隊：東原中尉率いる歩一機関銃隊約兵60名、重機関銃3、中橋中尉、田中中尉(野重七)、池田少尉

被害者：同社二階の活版工連に入り、活字ケース翻ほとんど全部をひっくり返す(新聞発行に多大な支障)。主筆横方竹虎が部隊指揮者と面会し、夕刊の発行を見合わせる。

【参考文献】伊藤隆他編「新訂二・二六事件 判決と証書」1995年 朝日新聞社、松本清張他編「二・二六事件=研究資料1~III」1976~1993年 文芸春秋、「昭和二十二年の全記録 第4巻 日中戦争への道程と10年~12年」1989年 講談社

12 二・二六事件概況

高橋是清邸における叛乱軍の動き

1階平面図

2階平面図

① 高橋邸正門前立番中、5・6名に銃剣で数ヶ所刺され、道路の上に組み伏せられた。事統・帯剣とも奪われた。

② 一箇分隊が屋内に入内したのを見て警察署に急報しようと受話器をもったが銃でたたき落とされ、是清の居間へ案内するよう脅された。

③ 二階へ上がり階段近くまで行ったところ、銃剣を持った5名の兵に囲まれ、「動く女でも殺す」と脅された。

今泉善道中隊 約60名
シャム公使館付近で守備隊 控兵待機 一中橋とともに宮城(皇居)坂下門警備後 帰堂 ※中橋は途中脱出

【参考文献】伊藤隆他編「新訂二・二六事件 判決と証書」1995年 朝日新聞社/松本清張他編「二・二六事件=研究資料1~III」1976~1993年 文芸春秋
平面図：昭和11年 高橋是清邸復元図 調製：昭和54年7月 塚越栄子・堤 弘・大井通也

13 高橋是清邸における叛乱軍の動き

西暦	元号	事 項	備 考
1913	2 59	山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣に任命される。改進黨入閣。	
1914	3 60	シモンズ事件発露。山本内閣総辞職。第一次世界大戦勃発。	
1915	4 61	政友会派等委員職となり、全引へ。	
1917	6 63	ロシア革命。第一次世界大戦により輸出禁止（金本位制中断）。	
1918	7 64	原敬内閣成立。大蔵大臣に任命される。	
1920	9 66	子爵に叙される。	
1921	10 67	原敬退任される。星亨、内閣連任大蔵大臣。大蔵大臣兼任。	
1922	11 68	原敬退任される。星亨、内閣連任大蔵大臣。大蔵大臣兼任。	
1923	12 69	原敬退任される。星亨、内閣連任大蔵大臣。大蔵大臣兼任。	12/27 山本内閣総辞職
1924	13 70	清津藩が改組され、貴族院中心。反対派による第二次護国運動起る。	
1925	14 71	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1926	元 72	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1927	2 73	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1929	4 75	ニューヨークの株式市場暴落により、世界恐慌が起る。	
1930	5 76	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1931	6 77	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1932	7 78	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1934	9 80	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1936	11 82	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1938	13	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1941	16	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1945	20	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1952	27	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1962	37	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	
1975	50	原敬退任。山本権兵衛内閣成立。大蔵大臣兼任。	



11



高橋清純記念公園 1941年(昭和16)竣工
高橋清純記念公園 1941年(昭和16)竣工



高橋清純記念公園 1941年(昭和16)竣工
高橋清純記念公園 1941年(昭和16)竣工

西暦	元号	事 項	備 考
1854	元 0	幕府領地(川村石右衛門の私生男として生まれ、まもなく仙臺の隠岐、高橋忠忠の長子に引き継がれる。	
1864	元 10	横浜に移住し、ヘボン塾等で英語を習得。貴族子弟が実業家でサポート。	
1866	2 12	横浜で第一回博覧会。初の博覧会。貴族子弟が実業家でサポート。	
1867	3 13	仙臺土の海外留学への帰国を許され、新米大之助(和蘭)とともにアメリカへ渡航。サンフランシスコのヴァンガード・ストリートでオーガニゼーションを設立する。	
1868	元 14	明治維新を知り、宇和島藩士(土山藩)一同とともに帰国。福島の紹介で赤松の養生となる。	
1869	2 15	福島の紹介で赤松の養生となる。	
1871	4 17	放浪のため、大子南校校長。津浦鉄道開通に伴って赤松へ。	教え子：長野金吾ほか
1872	5 18	津浦鉄道開通のため赤松。大蔵省十等出仕→開成学校入学。	
1873	6 19	津浦鉄道開通のため赤松。大蔵省十等出仕→開成学校入学。	
1876	9 22	西郷藩士と結婚。明治17年、桐子納付。	
1877	10 23	私立学校の英語教師となる。	教え子：秋山真之ほか
1878	11 24	東京大学予備門の英語教師となる。	
1881	14 27	文部省出仕。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1882	15 28	日本銀行支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1884	17 30	高橋藩支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1885	18 31	専断特許制長官。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1887	20 33	特許官。開成学校から独立。開成学校と合併。	
1889	22 35	開成学校。開成学校から独立。開成学校と合併。	
1892	25 38	日本銀行支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1893	26 39	日本銀行支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1895	28 41	開成学校支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1897	30 43	開成学校支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1898	31 44	開成学校支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1899	32 45	開成学校支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1904	37 50	日清戦争勃発。外債募集のため米へ派遣される。	
1905	38 51	外債募集成功。切戻により、買収計画に動議される。	
1906	39 52	開成学校支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1907	40 53	開成学校支店長。高橋藩に転任。開成学校、専断特許制成立に奔走。	
1911	44 57	日本銀行総裁に就任。	



11



高橋清純の肖像 高橋清純 1866年(明治19)



高橋清純の肖像 高橋清純 1866年(明治19)



高橋清純の肖像 高橋清純 1866年(明治19)



高橋清純の肖像 高橋清純 1866年(明治19)



高橋清純の肖像 高橋清純 1866年(明治19)

15 高橋は清年譜

高橋是清
家族と住居の系譜

西暦	元号	事項	家族	住居	所在地	現在の地名
1854	安政	元 幕府御用絵師川村庄右衛門の私生児として生まれる。 数日後、仙台藩江戸定詰(じょうづめ)御足輕高橋家へ里子に出される。		川村庄右衛門宅 仙台藩中屋敷	芝罘月町(さげづきまち) 芝罘岩下	港区新橋五丁目 港区西新橋三丁目
1864	元治	元 藩命により、鈴木六之助(知雄)とともに洋学修行のため横浜へ。 仙台藩木村大三部(備前)、養祖母喜代子同行。		中国語通訳太田源三郎 夜宅内蔵れ	横浜太田町	横浜市中区太田町
1866	慶応	2 横浜大火で一時的滞留後、訳読教師太田半次郎の紹介で、イギリス系銀行支配人アレキサンダー・アレン・シヤンドのボーイとなる。		イギリス系銀行	横浜外国人居留地	横浜市
1867		3 仙台藩よりアメリカ留学一行に加わり、鈴木とともに渡米。横浜居留地で高店を営むヴァン・リードの美家で英語修行を行うはずだったが、実際は家事手伝いに従事。ヴァン家の殺意で向かったブラウン家でも家事労働を強いられ、3年間の身売り契約を結んだことを後日、知らされる。ブラウン家中国移住のため、佐藤百太郎が勤める日本雑貨店へ。		ヴァン・リード家・ブラウン家 日本雑貨店(米人経営)	サンフランシスコ オークランド サンフランシスコ	サンフランシスコ オークランド サンフランシスコ
1868	元	新聞等により明治維新や内乱を知り、宇和島藩士城山静一、仙台藩士一委十次郎(後の後藤常)、鈴木とともに帰国。既軍藩士のため、人目をしのび、仮寓所にか月こもる。 城山の紹介で森有礼の書生となる。		汁粉屋裏の隠居所 森有礼宅	牛込堀端田町 神田錦町	新宿区山谷田町 千代田区神田錦町
1869	2	大学南校に入学→英語教官に。		大学南校教官役宅	神田一ツ橋	千代田区一ツ橋
1870	3	森有礼渡米の為、フルベッキ博士の書生となる。		同校フルベッキ宅	神田一ツ橋	千代田区一ツ橋
1871	4	放蕩のため大学南校を辞職し、馴染みの商店福井屋へ。 馴染みの姪妹で箱屋の手伝い。		福井数右衛門宅 東家栞吉宅	日本橋本町 [日本橋]	中央区日本橋本町
1872	明治	5 唐津藩廃止→大蔵省出仕→失職→開成学校入学。		唐津城 大学南校フルベッキ宅	唐津城 神田一ツ橋	唐津市 千代田区一ツ橋
1873	6	家庭教師のため、佐々木家へ。 森有礼の紹介で文部省通訳となる。		佐々木高之部長屋 仙台藩中屋敷	駿河台 芝罘岩下	千代田区神田駿河台 港区西新橋三丁目
1875	8	大蔵英語学校校長を数日→辞職→後藤常と仏書研究。		後藤常宅	番町	千代田区
1876	9	東京英語学校教員となる。フルベッキ師の大学南校から移転する住宅について探り、土地探し、洋館建築を行う。竣工後、敷地の日本家屋に居住。	養祖母喜代子、妹香と同居。香と監で親しかった西郷菊と結婚。翌年、長男是賢誕生。	フルベッキ宅日本家屋	駿河台鈴木町	千代田区神田駿河台
1878	11	フルベッキ帰国の際、洋館売却を依頼した資産家茅野宅へ。 茅野宅隣家の廃校された共立学校を再興するため、校長に就任。	実父川村庄右衛門病死。	茅野茂兵衛宅	神田淡路町	千代田区神田淡路町
1881	14	文部省出仕→農商務省へ転任。	次男是福誕生。			

西暦	元号	事項	家族	住居	所在地	現在の地名
1884	明治	17 農商務省商標登録所所長となる。	妻、柳病死。遺された二子の健康のため、小石川へ移転。			
1885		18 商標登録制度研究の為、農商務少書記官として欧米を視察。(翌年秋に帰国)		[馬小屋付武家屋敷]	小石川大塚塚町	文京区小石川、大塚
1887		20 農商務省より一頭曳き馬車を支給される。	原田品子と再婚。			
1889		22 官職を辞し、銀山開発事業のためベルギーへ。	養祖母喜代子死亡。			
1890		23 鉱山が廃坑と判明し、帰国。邸宅を含む財産を失う。	妹香病死。	元邸宅裏の長屋	小石川大塚塚町	文京区小石川、大塚
1891		24 是賢、群馬県利根郡戸倉山中で採鉱作業。	長女和喜子誕生。			
1892		25 鈴木某から教授を受け、一家で本所へ。日本銀行本店新築工事の建築事務所主任となり、建設現場近くへ移転。		鈴木某家近く土蔵	本所 日本橋本革屋町	墨田区 中央区日本橋本石町二丁目、 日本橋本革屋町二丁目
1893		26 日本銀行支配役となる。新設の西部支店長として馬園(下町)へ。	三男是孝誕生。	土地付き一軒家(家族)	本所押上町(家族)	墨田区押上
1895		28 横浜正金銀行本店支配人となる。	横浜に単身赴任。	貸間	野毛	横浜市野毛
1898		31 横浜正金銀行副頭取として海外支店視察旅行。葉山に別荘購入。		別荘購入	葉山	葉山町
1899		32 日本銀行副頭取となる。	長男是賢、横浜正金銀行見習いとしてロンドンへ。			
1901		34		四男是影誕生。		
1902		35			改築工事完了	
1909		42		次女貞喜子誕生。		
1911	44 日本銀行総裁に就任。	長女和喜子、大久保利賢(横浜正金銀行東京支店副支店長)と結婚。		赤坂表町	港区赤坂7丁目	
1913	大正	2 山本権兵衛内閣大蔵大臣に任命される。	三女喜美誕生。			
1915	大正	4 政友会選挙委員となり、全国で遊説。	四女美代子誕生。			
1917	大正	6	五女栄子誕生。			
1936	昭和	11 陸軍青年将校の襲撃を受け、即死。(二・二六事件)				

【参考文献】

『高橋是清自伝』高橋是清/著 上塚司/編 1936年(昭和11)2月9日 千倉書房/発行
『家業万丈 高橋是清 その時代』長野弘生/著 1979年(昭和54)12月 東京新聞出版局/発行

16 高橋是清家族と住居の系譜

【高橋是清関係写真リスト】(江戸東京博物館所蔵)

No.	資料番号	資料名	作者	時代	西暦	台紙	備考
(1) 青年期							
1	91003221	[大学南校中得業生時代] 左から高橋是清、山岡次郎、本多喜一カ		[明治4年]	1871	○	「第三号室右一」の裏書あり
2	91003222	通信寮時代カ 左から箕作佳吉、高橋是清、鈴木知雄		明治6年	1873	○	「第三号室右一」の裏書あり
3	91003224	文部省通訳時代 高橋是清肖像写真		明治8年	1875	△	
4	91003226	文部省通訳時代 左から異父妹かね、高橋是清		明治8年	1875	△	
5	91003223	共立学校校長時代 後列左から高橋是清、鈴木知雄、横田廣太郎カ		明治11年	1878	△	
(2) 壮年期							
6	91003225	農商務省登録商標所所長時代 後列左から高橋是清、鈴木知雄、前列左からは清次男是福、同長男是賢		明治17年	1884	○	「第三号室左ヨリ二」の裏書あり
7	91003227	農商務省特許所所長兼務時代 高橋是清肖像写真		明治19年	1886	○	
8	91003231	[浪人時代] 高橋是清肖像写真		[明治24～26年]	1893	○	「第三号室左五」の裏書あり
9	91003229	日本銀行西部支店長時代 高橋是清肖像写真		明治28年	1895	○	「第三号室左五」の裏書あり
10	91003230	横浜正金銀行副頭取時代 高橋是清写真		明治31年	1898	○	「第三号室左ヨリ四」の裏書あり
11	91003266	横浜正金銀行副頭取時代 ナイアガラ観光写真 左から高橋是清、吉井友兄、長崎夫妻	Niagara River Elevator and Photo. Co	明治31年8月11日	1898	◎	「高橋是清翁記念館文庫」類 巻六」ラベ ルあり
12	91003268	日本銀行副総裁時代 ニューヨーク州スカボローにて 右から高橋是清、山川勇木、巽孝之丞、一人置いて西巻豊佐久、深井英五、吉井友兄	T.G.Rabbris	明治38年4月7日	1905	◎	「高橋是清翁記念館文庫」類 巻五」ラベ ルあり 91003228は同写真の複写 「Scarborough n.y. usa」の裏書あり
13	91003287	日本銀行副総裁時代 ニューヨーク州スカボローにて 右から西巻豊佐久、深井英五、一人置いて高橋是清、巽孝之丞、山川勇木、吉井友兄	T.G.Rabbris	明治38年4月7日	1905	◎	「高橋是清翁記念館文庫」類 巻七」ラベ ルあり 「Scarborough n.y. usa 04/7/05」の裏 書あり
14	91003269	日本銀行副総裁時代 ニューヨーク州スカボローにて 高橋是清他 数名 自動車2台	T.G.Rabbris	明治38年4月7日	1905	◎	「高橋是清翁記念館文庫」類 巻四」ラベ ルあり 「Scarborough n.y. usa」の裏書あり
15	91003267	日本銀行副総裁時代 [ニューヨーク州にて] 運転席高橋是清、後部座席手前深井英五		明治38年4月7日	1905	◎	「高橋是清翁記念館文庫」類 巻九」ラベ ルあり
16	91003270	日本銀行副総裁時代 ニューヨーク州スカボローにて 運転席高橋是清、助手席深井英五、後部座席山川勇木	T.G.Rabbris	明治38年4月7日	1905	◎	「高橋是清翁記念館文庫」類 巻八」ラベ ルあり 「Scarborough n.y. usa」の裏書あり
17	91003172	高橋是清肖像写真		[明治後期]		×	木枠製写真真バネル
(3) 立憲政友会関係							
18	91003232	憲政擁護懇親会 上野精養軒にて 左から加藤高明、高橋是清、犬養毅		大正13年1月22日	1924	○	

19	91003233	岡崎久次郎邸にて 前列左より岡崎久次郎、高橋是清、加藤高明、若槻礼次郎、岡崎邦輔、後列左から二番目より浜口雄幸、三土忠蔵	高木静園	大正13年2月16日	1924	○	
20	91003219	原元首相の墓 (盛岡市大慈寺) に詣でて 高橋是清と田中義一首相	高木静園	昭和2年	1927	○	高木静園複写
(4) 老齢期							
21	91003235	私邸の縁側にて色紙に揮毫する高橋是清		昭和2年3月	1927	△	
22	91003236	私邸の庭で新聞を読む高橋是清	東京日日新聞	昭和2年3月	1927	△	
23	91003237	私邸の庭で新聞を読む高橋是清 (遠景)	東京日日新聞	昭和2年3月	1927	△	「東京日日新聞写真部」刻印あり
24	91003234	私邸の和室にてメモを取る高橋是清	東京日日新聞	昭和8年12月3日	1933	△	「東京日日新聞写真部」刻印あり
25	91003238	日曜の朝、私邸の縁側で孫三人と話す高橋是清	東京日日新聞	昭和8年12月3日	1933	△	
26	91003261	私邸食堂で家族と食事する高橋是清	東京日日新聞	昭和8年12月3日	1933	△	
27	91003260	私邸1階和室で朝食を摂る高橋是清	東京日日新聞	昭和8年12月3日	1933	△	「東京日日新聞写真部」刻印あり
28	91003262	私邸1階和室でコーヒーを飲む高橋是清	東京日日新聞	昭和8年12月3日	1933	△	「東京日日新聞写真部」刻印あり
29	91003239	斎藤実内閣大蔵大臣時代 前列グリエルモ・マルコーニ夫妻、高橋是清夫妻、後列アウリッチ伊大使、令嬢ほか		昭和8年12月20日	1933	△	
30	91003250	私邸で婦人、孫と歓談する高橋是清	主婦の友社	[昭和前期]		△	
31	91003251	私邸の1階和室で家族とくつろぐ高橋是清	主婦の友社	[昭和前期]		△	「SHUFUNOTOMO SHASHINKAN」刻印あり
32	91003252	私邸の1階和室で妻、孫とくつろぐ高橋是清	主婦の友社	[昭和前期]		△	「SHUFUNOTOMO SHASHINKAN」刻印あり
33	91003253	私邸和室で絵本を読む高橋是清の家族	主婦の友社	[昭和前期]		△	「主婦の友社ロゴ」刻印あり
34	91003257	私邸廊下で新聞を読む高橋是清	主婦の友社	[昭和前期]		△	「SHUFUNOTOMO SHASHINKAN」刻印あり
35	91003254	私邸の庭で鉢植えの水やりをすす高橋是清		[昭和前期]		△	
36	91003258	私邸玄関で家族の見送りを受ける高橋是清	東京日日新聞	[昭和前期]		△	
37	91003242	私邸応接間で家族と歓談する高橋是清		昭和9年4月13日	1934	△	
38	91003259	私邸応接間で髭の手入れをすす高橋是清と孫	東京日日新聞	昭和9年4月13日	1934	○	
39	91003241	大蔵省官邸大臣室にて高橋是清とモリス・ロスチャイルド (パリロスチャイルド家)		昭和9年4月13日	1934	△	
40	91003240	記念放送の前日、私邸の庭で鉢植え (菊) を眺める高橋是清	東京日日新聞	昭和9年9月28日	1934	○	「第一号室右四」の裏書あり
41	06900001	私邸玄関を出る高橋是清	東京日日新聞	昭和前期		△	「東京日日新聞写真部」刻印あり
42	06900002	大蔵省官邸で出迎えを受ける高橋是清	東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
43	06900003	大蔵省官邸の廊下を歩く高橋是清	東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
44	06900004	大蔵省官邸大臣室で新聞を読む高橋是清	東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	「東京日日新聞写真部」刻印あり
45	91003244	大蔵省官邸大臣室にて 取材対応する高橋是清と職員	東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	

46	91003245	大蔵省官邸大臣室にて	取材対応	撮影風景	東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
47	91003246	大蔵省官邸大臣室にて	左から高橋是清、津島次官、谷口秘書課長		東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
48	91003247	大蔵省官邸大臣室にて	取材対応する高橋是清と職員		東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
49	91003248	大蔵省官邸大臣室にて	左から高橋是清、津島次官		東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
50	91003243	大蔵省官邸玄関を出る高橋是清			東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
51	91003249	大蔵省官邸から帰宅して車を降りる高橋是清			東京日日新聞	昭和9年12月20日	1934	△	
52	91003256	大蔵省官邸大臣室にて高橋是清蔵相と深井日銀総裁				昭和10年6月	1935	△	
53	91003106	大礼服姿の高橋是清			新宮館	〔昭和10年〕	1935		額入り マットに「新宮館謹写：麻布三河台」印字
54	96650165	大礼服姿の高橋是清	眼鏡なし		新宮館	〔昭和10年〕	1935		額入り マットに「新宮館謹写：麻布三河台」印字
55	96650164	礼装で鳩杖を持つ高橋是清			新宮館	昭和10年6月24日	1935		額入り マットに「新宮館謹写：麻布三河台」印字

○：台紙（銀縁、和紙製）貼り

△：台紙なし、はがし跡あり

◎：高橋是清翁記念館時代の台紙(厚紙) 貼り

【高橋是清関係写真】 (江戸東京博物館所蔵)

(1) 青年期



1 〔大学南校中得業生時代〕 左から高橋是清、山岡次郎、本多喜一力 (91003221)



2 逓信寮時代力 左から箕作佳吉、高橋是清、鈴木知雄 (91003222)



3 文部省通訳時代 (91003224)



4 文部省通訳時代 左から妹かね、高橋是清 (91003226)



5 共立学校校長時代 後列左から高橋是清、鈴木知雄、横田廣太郎力 (91003223)

(2) 壮年期



6 農商務省登録商標所所長時代 後列左から高橋是清、鈴木知雄、前列左からは清次男是福、同長男是賢 (91003225)



7 農商務省特許所長兼務時代 (91003227)



9 日本銀行西部支店長時代 (91003229)



8 [浪人時代] (91003231)



10 横浜正金銀行副頭取時代 (91003230)



11 同左 ナイアガラ観光写真 左から高橋是清、吉井友兄、長崎夫妻 (91003266)



12 横浜正金銀行副頭取時代 ニューヨーク州スカボローにて 右から高橋是清、山川勇木、巽孝之丞、一人置いて西巻豊佐久、深井英五、吉井友兄 (91003268)



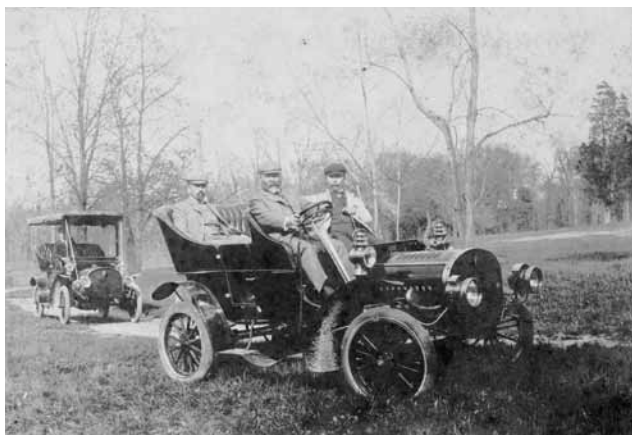
13 同上 右から西巻、深井、一人置いて高橋、巽、山川、吉井 (91003287)



14 同上 高橋是清他数名 自動車2台 (91003269)



15 [ニューヨーク州にて] 運転席高橋是清、後部座席手前深井英五 (91003267)



16 日本銀行副総裁時代 ニューヨーク州スカボローにて
運転席高橋是清、助手席深井英五、後部座席山川勇木 自動
車2台 (91003270)



17 肖像写真 (91003172)

(3) 立憲政友会関係



18 憲政擁護懇親会 上野精養軒にて 左から加藤高明、
高橋是清、犬養毅 (91003232)



20 原元首相の墓(盛岡市大慈寺)に詣
でて 左から高橋是清、田中義一首相
(91003219)

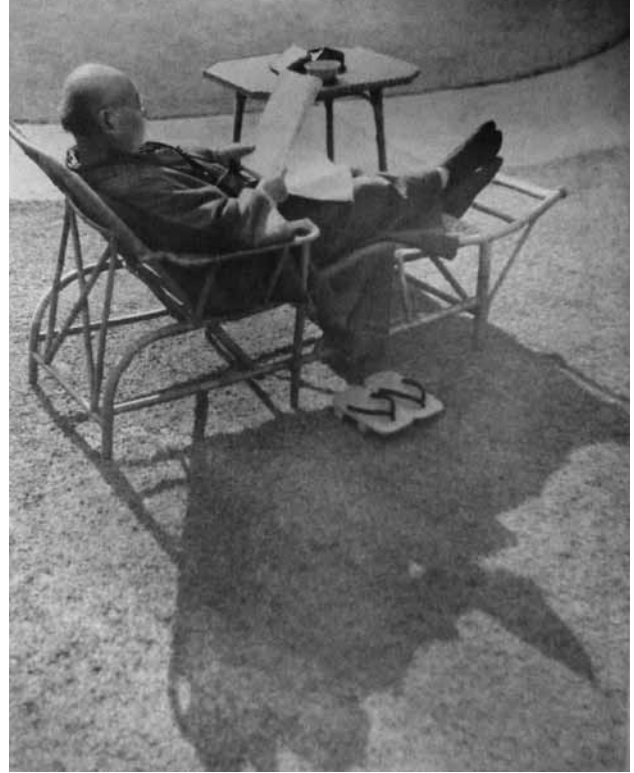


19 岡崎久次郎邸にて 前列左より岡崎久次郎、高橋是清、加藤高明、
若槻礼次郎、岡崎邦輔、後列左から二番目より浜口雄幸、三土忠蔵
(91003233)

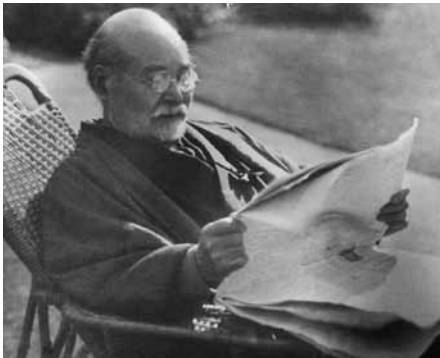
(4) 老齡期



21 私邸の縁側にて色紙に揮毫する (91003235)



23 私邸の庭で新聞を読む (91003237)



22 私邸の庭で新聞を読む (91003236)



24 私邸の和室にてメモを取る (91003234)



25 日曜の朝、私邸の縁側で孫三人と話す (91003238)



26 私邸食堂で家族と食事する (91003261)



27 私邸1階和室で朝食を摂る (91003260)



28 私邸1階和室でコーヒーを飲む (91003262)



29 斎藤実内閣大蔵大臣時代 前列グリエルモ・マルコーニ夫妻、高橋是清夫妻、後列アウリッチイタリア大使、令嬢他 (91003239)



30 私邸で孫と歓談する (91003250)



31 私邸の1階和室で家族とくつろぐ (91003251)



32 私邸の1階和室で夫人、孫とくつろぐ (91003252)



33 私邸和室で絵本を読む高橋是清の家族 (91003253)



34 私邸廊下で新聞を読む (91003257)



35 私邸の庭で鉢植えの水やりをする (91003254)



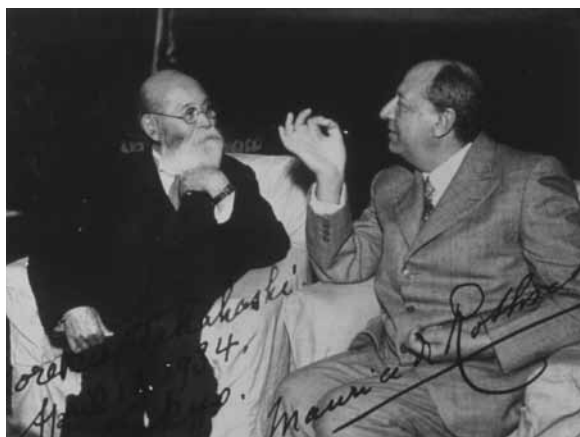
36 私邸玄関で家族の見送りを受ける (91003258)



37 私邸応接間で家族と歓談する (91003242)



38 私邸応接間で髭の手入れをする高橋是清と孫 (91003259)



39 大蔵省官邸大臣室にて高橋是清とモリス・ロスチャイルド (パリロスチャイルド家) (91003241)



40 記念放送の前日、私邸の庭で鉢植え (菊) を眺める (91003240)



41 私邸玄関を出る (06900001)



42 大蔵大臣官邸で出迎えるを受ける (06900002)



43 大蔵大臣官邸の廊下を歩く (06900003)



44 大蔵大臣官邸大臣室で新聞を読む (06900004)



45 大蔵大臣官邸大臣室にて 取材対応する高橋是清と職員 (91003244)



46 同左 撮影風景 (91003245)



47 大蔵大臣官邸大臣室にて (91003246)



48 同左 取材対応 (91003247)



49 同上 高橋是清、津島次官 (91003248)



50 大蔵大臣官邸玄関を出る (91003243)



51 大蔵大臣官邸から帰宅して車を降りる (91003249)



52 大蔵大臣官邸大臣室にて高橋是清蔵相と深井日銀総裁 (91003256)

(5) 大礼服、鳩杖下賜



53 大礼服姿 (91003106)



54 大礼服姿 (眼鏡なし) (96650165)



55 礼装で鳩杖を持つ (96650164)